平成 28 年度活動実績報告

1.　「平成 28 年度事業実績報告」概要版（理事会報告）

2.　各部門「事業実施評価表」

平成 28 年度学校法人山陽学園事業の実績について

1. 学生・生徒・園児の入学及び在籍状況

(1) 入学者数

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

設　置　学　校	入学定員(人)	入学者数(人)	充足率(%)
山陽学園大学 大学院看護学研究科	**6**	**2**	**33**
山陽学園大学 総合人間学部言語文化学科	60	36	60
〃　　生活心理学科	60	24	40
看護学部看護学科	80	91	114
助産学専攻科	10	9	90
大　学　計	**210**	**160**	**76**
山陽学園短期大学 食物栄養学科	80	60	75
幼児教育学科	100	63	63
短 期 大 学 計	**180**	**123**	**68**
山陽女子高等学校	**200**	**164**	**82**
山陽女子中学校	**70**	**53**	**76**
附属幼稚園	**40**	**37**	**93**

(2) 在籍者数

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

設　置　学　校	収容定員(人)	在籍者数(人)	充足率(%)
山陽学園大学 大学院看護学研究科	**12**	**6**	**50**
山陽学園大学 総合人間学部言語文化学科	250	148	59
〃　　生活心理学科	250	128	51
看護学部看護学科	320	348	109
助産学専攻科	10	9	90
大　学　計	**830**	**633**	**76**
山陽学園短期大学 食物栄養学科	160	130	81
幼児教育学科	200	157	79
短 期 大 学 計	**360**	**287**	**80**
山陽女子高等学校	**600**	**552**	**92**
山陽女子中学校	**210**	**181**	**86**
附属幼稚園	**120**	**110**	**92**

2．諸活動

(1)オープンキャンパス・オープンスクールの状況

①大学･短期大学

開　　催　　日	参加者(名)	保護者(名)
6 月 18 日(土)	150	45
7 月 18 日(月･祝)	271	98
8 月 20 日(土)	210	55
9 月 24 日(土)	91	36
2 月 15 日(水)大学見学会	33	0
3 月 18 日(土)	72	30
計	827	234

平成 28 年度は大学祭の来場者数を計上していない。

②高校

開　　催　　日	参加者(名)	保護者(名)
第 1 回：7 月 9 日（土）	362	73
第 2 回：10 月 1 日（土）	244	44
第 3 回：11 月 23 日（水）	451	106
計	1057	223

③中学

開　催　日	参加者(名)	保護者(名)
第 1 回：7 月 9 日（土）	115	150
模　試：10 月 1 日（土）	179	
第 2 回：11 月 23 日（水）	91	136
計	385	286

3．事業実績

【山陽学園大学大学院・山陽学園大学・山陽学園短期大学・山陽学園短期大学附属幼稚園】

平成 28 年度においては、本学の教育理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、130 年の歴史と伝統を踏まえながら、教育、研究、社会活動・地域貢献を柱として、事業を展開した。

1　教育活動

（1）教育方針

「愛と奉仕」の精神を基軸に、人々の健康で文化的な生活や、グローバル化・共生社会の実現などに貢献できる人材の育成を旨として、専門的な知識・技能の習得に加え、一人ひとりの個性を尊重し、学生の満足度を高める教育に努めた。

（2）教育活動

大学・大学院 639 名、短期大学 287 名の計 926 名の在学生(平成 28 年 5 月 1 日現在)に対して各学部学科の特性を活かして、多岐にわたる教育活動を行った。

・大学院看護学研究科では、厳格な審査を経て３名の修了生を輩出した。専門分野の動向や最新情報を取得するため、院生全員が１回以上学会に参加し、その内４名が学会発表するなど、教育研究活動の充実に努めた。
・総合人間学部言語文化学科では、英語特待生制度を充実し、周知広報に努め、英検準２級の入学者２名を受け入れた。また、29 年度から「日本・アジアコース」と「英語コース」の２コースを設置するため、必要なカリキュラムの改訂を行った。生活心理学科では、理論を実践するために企業、地域、行政と連携を進め、問題解決型学習の更なる充実を図った。

・看護学部では、初年次教育から専門教育、国家試験対策、就職支援までの一貫した教育を行い、看護師国家試験合格 100％を目指したが、88.6％に留まった。
・新設の助産学専攻科では、母子保健に貢献できる職業人を養成するため、幅広く確かな知識、高度で質の高い技術の修得に取り組み、助産師国家試験 100％合格という幸先の良いスタートを切ることができた。
・食物栄養学科では、栄養士実力認定試験を活用し、専門教育の学習成果の確認を行った。また、地域社会に対して専門性を生かした貢献として、幼児家庭向け『食育チラシ』の発行、子どもの健康を培う食育を考える『食育シンポジウム』の開催など、子育て支援や地域連携に取り組んだ。
・幼児教育学科では、保育者に必要な実務能力(ピアノ・文章作成)の確実な修得に重点を置いた教育に取り組んだ。また、「Sanyo 子育て愛ネット」の活動を大学・短大の全学科が参加する活動に規模を拡大して行うなど、子育て支援や地域連携に積極的に取り組んだ。

（３）キャリアサポートと就職支援

①　各学科とも就職率の（目標値：100～95％）の維持、向上に務めた。

「社会人入門」の授業内容を見直すとともに、就職適性検査、就職実践模試の分析結果を関係部門の職員などが共有して就職指導に役立てた。

学科別就職率（5 月 1 日現在）

・総合人間学部	： 言語文化学科	90.5％	生活心理学科	100%
・看　護　学　部	： 看護学科	100％		
・短　期　大　学	： 食物栄養学科	100％	幼児教育学科	100％

②　一般職志向の総合人間学部と、専門職志向の看護学部及び短大のそれぞれに応じた支援を行った。

・一般職志向に対応し、「合同企業説明会」「単独企業説明会」等の情報提供や「卒業生による業界研究」「就職支援バスの運行」等を行った。また、総合人間学部、短大を対象に保護者も参加する「就職懇談会」を開催した。
・専門職志向については、「実習病院就職説明会」「栄養士業界研究会」「保育士合同面談会」を開催した。

③　求人や企業情報を検索できるキャリアサポートラボの利用促進、秘書検定等の資格取得支援、インターンシップなど各種のキャリアサポート・就職支援策を実施した。

④　内定までの就職活動期間の短縮に対応して、学生に活動の遅れがないよう就職活動の支援、指導を行った。

⑤　満足度の高い就職支援の参考するため、新たに卒業後 3 年を経過した卒業生に対する

アンケート調査を実施した。

（４）退学・除籍者数

926 名の在学生のうち、45 名（4.9%）が退学あるいは除籍となった。一人ひとりへの丁寧な対応に努めたが、年次目標値（3.5%）の達成には至らなかった。

・総合人間学部　：　言語文化学科 11 名（7.4%）生活心理学科 10 名（7.8%）
・看　護 学 部　：　看護学科 10 名（2.9%）
　　助産学専攻科１名（11.1%）
・短　期 大 学　：　食物栄養学科 10 名（7.7%）、幼児教育学科 3 名（1.9%）

退学の主な理由は、進路変更（17 名）、精神的・身体的理由（2 名）、経済的理由（16 名）などで、退学が懸念される学生については、アドバイザーやクラス顧問が根気強く指導にあたり、修学意欲の維持・向上等を図るとともに、教授会でも対応策を協議した。経済的理由の場合には、退学に至る場合が多かった。

除籍の主な理由は、学納金未納（8 名）である。留学生が学納金未納のまま除籍となるケースが多かった。

（５）学生募集

前年度の入学実績の落ち込みを重く受け止め、これまでの業務の在り方を見直し改善に取り組んだ。最終的な学生募集の実績は前年度並みにとどまったが、新たな取組に着手することができた。

・高校訪問については、大学案内の発刊遅れから全学を挙げた訪問が遅れたが、秋以降、広報業務に長けた教職員が訪問する体制が整い、かなり挽回することができた。また、在学生による学生募集活動を奨励し、OB による親近感のある出身校訪問を制度化することができた。
・本学の認知度を上げるための広告については、岡山駅構内看板広告や路面電車内広告、岡山県 HP へのバナー広告等を新たに実施した。オープンキャンパスは、高校訪問の出遅れで参加者数が伸び悩んだが、年明けから 30 年度入試に向けての取組を開始し、2 月の大学見学会や 3 月のオープンキャンパスの充実により、年間総数で昨年度を少し上回る結果となった。テレビ CM については、タイミングを逸して未制作となったが、29 年度早々の作成に向けて業者決定を行った。
・入試については、全ての入試をミスなく円滑に実施した。入試改善では、AO 入試の早期化を図り、目的意識のしっかりした学生確保につながった。留学生の確保では、日本語学校にも指定校制度を導入した。受験者の経済的な支援については、英語検定と家庭技術検定の資格取得者に学費減免の特典を導入したところ、有資格者が増加した。また、30 年度入試に向けて、看護学部への AO 入試導入、那覇での学外試験、山陽女子高出身者と山陽学園卒業生の子女を対象にした学費減免の新たな制度を導入することを決定した。

２　研究関連事項

地域ニーズに基づく研究活動、学内競争的研究費の配分及び競争的外部資金獲得を中心的に活動を行った。

①　地域ニーズに基づく研究活動としては、岡山市中区との包括連携協定（平成 28 年度締結）

に基づき、『大学と地域の連携による「地域高齢者の健康測定」の効果に関する研究－身体・認知・社会的機能の縦断的変化－』に着手した。平成 28 年度は「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」により研究資金を確保するとともに、岡山市中区平井地区の協力を得て、当該研究事業を開始した。

② 学内競争的研究費の配分については、教育改革公募研究支援経費（1 件 20 万円）として 3 件、学内研究補助金（1 件 30 万円）として 20 件、計 660 万円の配分を全学的に行った。これらの研究成果報告書の取りまとめは、平成 29 年度に実施する。また、英語論文作成補助費（1 件上限 5 万円）を 2 件交付した。

③ 競争的外部資金獲得については、平成 27 年度に引き続いて教学事項の見直しを実施しつつ、「私立大学等改革総合支援事業」の申請を行った。その結果、大学は「地域貢献」の立場から、短期大学は「教育の質的転換」の立場から採択され、LL 教室のプロジェクターなど機器の整備を行った。（交付総額 約 2,000 万円）

3 社会活動・地域貢献関連事項

（1）大学・短大が主催･共催する地域との連携事業

①公開講座は、第 1 回は本学で平井学区と連携し、第 2 回は真庭で真庭市・真庭高校の後援で、第３回は和気で和気町・和気閑谷高校の後援で開催した。

②学園創立 130 周年記念公開講演会（尾木直樹講師）と、中区との包括連携協定締結記念・岡山市中区役所新庁舎開所記念講演会（三ッ木茂講師）を開催した。

③学友会関連では、「さんぱと隊」が地域の防犯活動へ７回出動した。

④大学コンソーシアムと連携して、「日ようび子ども大学」に生活心理学科と幼児教育学科が出展するとともに、「エコナイト奉還町」の運営に参画した。また、熊本震災復興ボランティア活動へ学生派遣を行った。

⑤全ての学科において「親子交流広場」に取り組み、幼児教育学科は 3 回、他の学科は１回実施した。

⑥この他、看護学科は平井学区で健康測定、生活心理学科は笠岡市大島地区との連携事業、食物栄養学科は「食育シンポジウム」と「オレンジカフェ」へ学生派遣（4 回）を行った。

（2）学生のボランティア参加述べ人数

学生の自主的な活動をはじめ、学友会・部長会・サークルとしての取組など計 314 人回行われた。

4 大学運営関連事項

（1）合同会議を月２回開催し、学内情報の共有と教授会等の各種会議体や事務局各部署との連携を図り、柔軟で迅速なガバナンスを確立するとともに、大学運営の改革改善の推進に努めた。

（2）新学部の設置について、教学面、管理面での検討を重ね、文部科学省に対して設置認可申請を行った。

（3）山陽スピリット推進室を中心に、山陽学園大学、短期大学に所属するすべての学生・教職員の帰属意識を高めるとともに、「愛と奉仕」の精神に基づく教育を実践していることを学

内に徹底し、マスコミ等を通じて学外に向けて広報した。

（４）教職員の資質向上と適正な業務執行体制を確立するため、FD（Faculty Development 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み）、SD（Staff Development 事務職員の資質向上のための取り組み）を６回実施した。

（５）教職員の健康管理・健康増進・安全確保に努めるとともに、心身の健康状況を把握するためのストレスチェックを実施した。

（６）学生による授業評価をもとに教員表彰を行うなど、教員のモチベーションの向上に努めた。

（７）新学部設置に伴い、アメニティの向上のため学生食堂をキャンパス中心に近い学生ホールに移動した。

（８）英検、TOEIC 等の試験会場として本学を提供することにより、高校生等の本学に対する認知度の向上に努めた。

５　山陽学園短期大学附属幼稚園

豊かな感性を養うとともに主体的に行動できる幼児の育成を図るため、自然との触れ合い、人とのかかわりを広げる保育を積極的に実施した。また、地域の方々の参加による餅つき会、野菜作りなどの行事の実施や「クラスだより」の内容充実に努め、地域や家庭との連携を深めるとともに、本園の教育内容の PR に努めた。

平成28年度・事業実施評価表（教育領域）；生活心理学科　2016.4.28

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
				①	AO入試で適切な学力表を行い、入学者を確保する。	AOを高校訪問で丁寧に説明する	21%	さらにAOを高校訪問で丁寧に説明する	25%		AOを高校訪問で丁寧に説明している	33%	目標達成した		AOの入学者率
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	現状を維持する	4	現状を維持する	4	4	現状を維持している	4	現状を維持した		
				3	健康や文化への価値観を高める。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
				5	学園への帰属意識を高める。	学園祭などの参加を誘う	5	学園祭などの参加を誘う	5	5	学校行事への参加を促している	5	学校行事への参加を促した		
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	7	シラバスを充実する。	履修者の成績分布表記など工夫する	4	履修者の成績分布表記など工夫する	4	5	シラバスを適切に作成している	5	シラバスを適切に作成した		
				8	専門科目を充実する。	科目担当者間で検討する	4	科目担当者間で検討する	4	4	担当教員間での意見交換を行っている	4	担当教員間での意見交換を行った		
				9	成績評価を厳格にする。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
				11	体験交流重視教育を強化する。	回数を増やす	2回	回数を増やす	4回/年	5回/年	回数を増やした	5回/年	回数を増やした		交流教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	学科全体で取り組む	1回	学科全体で取り組む	2回/年	3回/年	回数を増やした	3回/年	回数を増やした		社会活動等の回数/年間
				②	資格特待生制度・英語堪能入学者増計画を導入する。	0月1日より新制度による募集を開始する	8%	積極的に高校へ募集を行う	10%	8%	積極的に高校へ募集を行っている	8%	積極的に高校へ募集を行った		特待生等の入学者に占める割合
				③	家庭科教育教職課程教育を実施し、履修者を増やす。	家庭科教職の魅力を伝える	6名	今後も続けていく	6名	18名	前年度評価の数字（13名）	18名	増加した		家庭科教育教職履修者数
				④	生活科学・心理学の2コース制を実施する。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
			(4)学習支援の強化。	13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	組織として実態不明。改善が必要。	2	組織として実態不明。改善が必要。	4	2	組織として実態不明。改善が必要。	2	組織として実態不明。改善が必要。		
				14	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	組織として実態不明。改善が必要。	2	組織として実態不明。改善が必要。	4	2	組織として実態不明。改善が必要。	2	組織として実態不明。改善が必要。		
				15	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する	科目間の連携を深める	2	アクティブラーニングの実施	4	4	アクティブラーニングの実施	4	アクティブラーニングの実施		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	講座への参加を促す	3	講座への参加を促す	4	3	講座への参加を促している	3	講座への参加を促した		
				18	社会人基礎力の強化を図る。	学外の講座などの情報を伝える	3	学外の講座などの情報を伝える	4	3	学外の講座などの情報を伝えている	3	学外の講座などの情報を伝えた		
				⑤	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図	さらに学生に説明し理解を深める	—	さらに学生に説明し理解を深める	100回	3	学生に説明をし理解を深める	3	学生に説明をし理解を深める		システム利用者延べ数
				⑥	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	現状を維持する	5	正課への移行を目指して改編する	5名	－	改編した	－	改編した		プログラム参加者数
				⑦	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	さらに学生に説明し理解を深める	—	さらに学生に説明し理解を深める	50名		さらに学生に説明し理解を深める		さらに学生に説明し理解を深める		プログラム参加者数
			(6) 学生支援の強化	22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学についての情報を提供する	—	留学についての情報を提供する	5	5	留学についての情報を提供している	5	留学についての情報を提供した		
				23	中退・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	授業内容の魅力を高める	—	授業内容の魅力を高める	1.0%						
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	現状を維持する	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持した		
				26	ホームページを改定する。	全教員が年2回は更新する	—	全教員が年2回は更新する	2回/年	2回/年	全教員が年2回は更新した	2回/年	全教員が年2回は更新した		教員紹介等の項の更新回数
				27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する	ホットニュースなどを随時更新をする	1	ホットニュースなどを随時更新をする	4回/月	4回/月	ホットニュースなどを随時更新をした	4回/月	ホットニュースなどを随時更新をした		HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する	入試広報部との連携を深める	2	入試広報部との連携を深める	4	5	入試広報部との連携を深めている	5	入試広報部との連携を深めた		
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	入試広報部との連携を深める	3	入試広報部との連携を深める	4	5	入試広報部との連携を深めている	5	入試広報部との連携を深めた		
				30	学生参加型のOCを実施する。	現状をさらに強化する	5	現状をさらに強化する	5	5	現状をさらに強化している	5	現状をさらに強化した		
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	推薦入試の小論文などの再検討	4	推薦入試の小論文などの再検討	4	5	推薦入試の小論文などの再検討している	5	推薦入試の小論文などの再検討した		
				32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者を増やし定員充足率10割とする	40%	受験者を増やし定員充足率10割とする	100%	65%	定員充足率65%	65%	定員充足率65%		定員充足率
				33	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	教員の地域活動等でPRを行う	3名	教員の地域活動等でPRを行う	3名	0名	教員の地域活動等でPRを行っている	0名	教員の地域活動等でPRを行った		社会人入学者率
				⑧	総人学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	入試広報部との連携を深める	4	一層入試広報部との連携を深める	4						
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	34	各学科とも就職率（95-100%）の維持・アップを図る。	現状を維持する	100%	現状を維持する	100%	100%	現状を維持した	100%	現状を維持した		就職率
				35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	さらに内容を充実させる	4	さらに内容を充実させる	5	5	さらに内容を充実させている	5	さらに内容を充実させた		
				36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	さらに内容を充実させる	4	さらに内容を充実させる	5	5	さらに内容を充実させている	5	さらに内容を充実させた		
				37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	さらに適正に配置・整備を行う	4	さらに適正に配置・整備を行う	5						

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28年度・事業実施評価表（教育領域）；言語文化学科

作成日；2017年3月28日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	適正な評価が行われている。	5	現状を維持する。	5	－	現状を維持した。	5	現状を維持した。		
				2	AO入試で受入方針に合った入学者を確保する。	項目別数値評価方法を定め、実施した。	5	数値評価を継続して実施する。	5	－	数値評価を継続して実施している。	5	数値評価を継続して実施した。		
				3	学部学科の充実策に応じて受け入れ方針を見直す。	見直しがなされていない。	3	方針を見直し、学部で表記を統一する。	4	－	方針を見直し、学部で表記を統一した。	5	方針を見直し、学部で表記を統一した。		
			(2)教養教育の充実化	4	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	「山陽スタンダード」科目で行われている。	4	現状を維持する。	4	－	現状を維持した。	4	現状を維持した。		
				5	健康や文化への価値観を高める。	「人間学」で具体的に講義されている。	5	現状を維持する。	5	－	現状を維持した。	5	現状を維持した。		
				6	社会活動・地域貢献に対する価値観を高める。	価値観の深化が十分でない。	3	必修科目などで活動を継続し、その意義に気づかせる。	4	－	必修科目などで活動を継続し、ある程度はその意義に気づいている。	4	必修科目などで活動を継続し、ある程度はその意義に気づかせることができた。		
				7	学園への帰属意識を高める。	学科で大学祭に参加している。	4	大学祭や記念行事に参加する。	4	－	大学祭や記念行事に参加した。	4	大学祭や記念行事に参加した。		
				8	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	山陽スタンダード科目や基礎演習の充実に努めている。	4	アクティブラーニングを取り入れ、さらに充実に努める。	4	－	アクティブラーニングを取り入れ、さらに充実に努めている。	4	アクティブラーニングを取り入れ、さらに充実に努めた。		
			(3)学士力の向上のため、学部・学科等のディプロマポリシーのさらなる実質化。	9	専門科目の充実を図る。	学科のカリキュラム改訂を検討した。	4	カリキュラム改訂に向けて制度を整備する。	4	－	カリキュラム改訂検討中である。	4	カリキュラム改訂を行い、制度を整備した。		
				10	成績評価を厳格にする。	十分に行われている。	5	現状を維持する。	5	－	現状を維持した。	5	現状を維持した。		
				11	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	必修科目やゼミ等で行われている。	4	現状を維持する。	4	－	現状を維持した。	4	現状を維持した。		
				12	体験交流重視教育を強化する。	必修科目や留学・実習科目で実施している。	3回/年	1～3年の必修科目で年3回以上実施する。	3回/年	－	1年で2回行った。	3回/年	1～3年の必修科目で年3回以上実施した。		
				13	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	必修科目などで実施している。	2回/年	新入生研修で地域貢献への導入を行う。	2回/年	－	新入生研修で地域貢献への導入を行った。	2回/年	新入生研修で地域貢献への導入を行った。		
				14	思考・表現力、異文化理解力、コミュニケーション力を高め	必修科目などで実施している。	4	アクティブラーニングを促進する。	4	－	アクティブラーニングを促進している。	4	アクティブラーニングを促進した。		
				15	留学や実習などの海外経験を促進する。	留学・実習系科目で促進している。	4	さらに促進する。	4	－	共生Gなどの協力も得て促進している。	4	共生Gなどの協力も得て促進した。		
				16	専門性を高め、広く学ぶ。	主副専攻制、コース制を検討した。	4	コース制に向けて制度を整備する。	4	－	コース制に向けて制度を整備している。	5	コース制に向けて制度を整備した。		
				17	日本・アジア言語文化コースの学びの充実を図る。	コースの目標や系統図などを検討した。	4	コースのカリキュラムを作る。	4	－	コースのカリキュラムを作っている。	5	コースのカリキュラムを作った。		
				18	英語文化コミュニケーションコースの学びの充実を図る。	コースの目標や系統図などを検討した。	4	コースのカリキュラムを作る。	4	－	コースのカリキュラムを作っている。	5	コースのカリキュラムを作った。		
				19	英語特待生、英語特別集中講座を継続して実施する。	第3期目を実施し、前回より受講者が増えた。	各2名	講座の周知と受講者の増加を目指す。	各3名	－	前期は19名の申込があった。	各3名	前期19名、後期6名の受講であった。全体としては前回より増加した。		
			(4)学修支援の強化。	20	アドバイザー制度などを活用する。	履修や学生生活指導に活用されている。	4	学習問題の早期発見・相談に努める。	4	－	学習問題の早期発見・相談に努めている。	4	学習問題の早期発見・相談に努めた。		
				21	初年次教育の総合的な支援のしくみを作る。	総合的支援システムは構築されていない。	2	総合的支援のしくみ作りを検討する。	3	－	総合的支援システムは構築されていない。	2	総合的支援システムは構築されていない。		
				22	学修の自己管理力を養成する。	修得単位が少ない学生に注意書を送付する。	4	注意書に加え、面談指導などを行う。	4	－	注意書に加え、面談指導などを行っている。	4	注意書に加え、面談指導などを行った。		
				23	資格等取得指導を強化する。	指導の目的と方法を検討した。	2	定期的調査と指導を実施する。	3	－	前期始めに調査を行い、指導した。	3	各学期始めに調査を行い、指導した。		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	24	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活講座への参加が不足している。	2	課外講座への参加を促す	3	－	課外講座への参加を促す	3	課外講座への参加を促したが、参加率の低い講座が複数あった。		
				25	社会人基礎力の強化を図る。	就職支援科目の受講がやや不足している。	3	社会人入門などの受講を促す。	3	－	社会人入門などの受講を促す。	2	社会人入門などの受講を促したにも関わらず、受講率は低かった。		
				26	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	ポイントシステムの学科独自の活用を検討した	2	キャリア支援システムの活用を促す。	3	－	キャリア支援システムの活用はあまりできていない。	2	キャリア支援システムの活用はあまりできなかった。		
				27	ホテルエアライン課外プログラムの充実を図る。	各学年で平均5名程度受講している。	各5名	正課科目としての導入を検討する。	各5名	－	正課科目としての導入を検討している。	各3名	正課科目としての導入を決めた。履修者は減っている。		
				28	ビジネス能力開発等の正課内プログラムの充実を図る。	検定の受験を義務づけた。	4	指導を強化し、検定合格を増やす。	4	－	履修を促進した。履修者が増えた。	4	ほぼ全員が履修し、留学生2名を含む18名が合格した。		
			(6)学生支援の強化	29	外国人留学生支援方策を検討する。	出席に問題がある留学生の指導を行った。	3	出席状況を注視し、特別指導を行う。	3	－	出席状況を注視し、特別指導を行っている。	4	出席状況を注視し、特別指導を行った。		
				30	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標に達していない。	5.6%	目標に向けて努力する。	3.5%	－	目標に向けて達成の努力をしている。	4.7%	達成の努力をしたが、現時点で目標値に達しなかった。		
				31	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する。	5	－	現状を維持する。	5	現状を維持した。		
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	32	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	OCの形式を変え、HP更新のしくみを作った	3	広報ポイントを定め、方法を検討する。	4	－	広報ポイントを定め、学科独自の高校訪問を行う予定である。	4	広報ポイントを定め、学科独自の高校訪問を行った。		
				33	ホームページを改定する。	教員紹介のページを更新した。	1回/年	年1度は教員紹介を更新する。	1回/年	－	前期始めに教員紹介を更新した。	1回/年	年1回教員紹介を更新した。		
				34	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する。	学科ニュースの更新が目標に達していない。	9回/年	学科ニュースを年10回以上更新する。	10回/年	－	更新を行っている。	10回/年	更新回数は目標を達成したが、予定した項目の一部を更新できなかった		
				35	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	目指す学科像を検討した。	3	目指す学科像の共有と広報に努める。	4	－	目指す学科像の共有と広報に努めている	4	目指す学科像の共有と広報に努めた。		
				36	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	OCの内容に改善の余地がある。	3	OC参加者の受験率向上に努める。	4	－	OC参加者は増加している。	－	OC参加者、受験者ともに増加した。両者の重なりは現時点では調査できな		
				37	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加を得て効果を上げている。	4	引き続き学生の参加を求める。	4	－	現在までの所、毎回協力を得ている。	4	OCの全ての回において学生の協力を得た。		
				38	必要な入試制度の見直しを行う。	平成26年度の見直しを維持した。	4	AO入試の試験日程を早める。	4	－	AO入試の試験日程を早め、出願があっ	4	AO入試の試験日程を早め、受験数が増えた。		
				39	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	特別編入で1名の入学があった。	2%	さらに広報を行う。	5%	－	特別な広報は実施していない。	2%	編入学で1名入学予定者がいる。		
				40	総人学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	入試広報部と連携して実施している。	4	入試広報部との連携をさらに深める。	4	－	入試広報部との連携し学科独自の高校訪問を1度実施した。	4	入試広報部との連携し学科独自の高校訪問を2度実施した。		
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	41	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標は達成している。	95%	100%を目指す。	100%	－	100%を目指す。	85%	現時点では85%である。		
				42	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	キャリアセンターと連携して行っている。	4	さらに連携を深める。	4	－	さらに連携を深める。	4	保護者会は教務課、就職懇談会はキャリセンターと連携して実施した。		
				43	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	資格を生かした就職支援に尽力している。	4	引き続き支援を行う。	4	－	資格を生かした就職支援に尽力している。	4	資格を生かした就職支援に尽力した。教職で2名の就職予定がある。		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28年度・事業実施評価表（教育領域）；看護学科

平成28年3月28日修正

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化		面接時による適正評価を行う	充分行われた	4	適切に実施する	5	4	充分行われた	4	充分行われた		
					特別推薦の定員の削減	30%	1	特別推薦の定員の削減	18%			29 %	取り組んでいない	目標が妥当かどうか検討が必要	
			(2)教養教育の充実化		学園の建学の理念と歴史を学ぶ	従来通り実施した	5	現状を維持する	5	5	現状を維持できた	5	従来通り実施した		
					山陽スタンダード等教養教育の強化を図る	従来通り実施した	5	現状を維持する	5		現状を維持できた	5	従来通り実施した		
					健康や文化への価値観を深める	従来通り実施した	4	現状を維持する	4		現状を維持できた	4	従来通り実施した		
					社会活動・地域貢献への価値観を深める	従来どおりできた	4	現状を維持する	4		現状を維持できた	4	従来どおりできた		
					学園への帰属意識を高める	ナーシング・セレモニーを実施した	5	継続実施	5	5	ナーシング・セレモニーを準備中	5	ナーシング・セレモニーを実施した	継続実施の是非を検討する	
			(3)学士力の向上のため、学部・学科・研究科のディプロマポリシーのさらなる実質化。		シラバスの内容を充実する	シラバス内容を再検した	5	継続実施	5			5	成績評価のフィードバック方法を記載した。		
					専門科目を充実する	充分行われている	5	現状維持する	5	5	現状維持できた	5	充分行われている		
					成績評価を厳格にする	充分できた	5	現状維持する	5	5	充分できた	5	充分できた		
					課題探求型、問題解決型学習を積極的に導入する	できた	4	現状維持する	4	4	できた	4	できた		
					実習における体験教育を強化する	充分できた	5	継続実施	5	5	充分できた	5	充分できた		
					社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する	できた	4	現状維持する	4	4	できた	4	できた		
			(4)学習支援の強化。		センター試験利用入学者を増やす	不充分である	3	検討する	3	2	取り組みなし	2	8名から5名に減。		
					アドバイザー制度の活用	従来どおり充分に行われている	4	継続実施	4	4	従来どおり充分に行われている	4	従来どおり充分に行われている		
					初年次教育GWなど総合的な支援システムの構築	従来どおり行った	4	継続実施	4	4	従来どおり行った	4	従来どおり行った		
					教務、学生、キャリアなどのプロジェクトで支援をすすめる	従来どおり行った	3	現状維持する	3	3	従来どおり行った	3	従来どおり行った		
					入学前学習の充実：検討を図る	成果あり	4	成果あり維持	4	4	成果あり	4	成果あり		
					国家試験対策等の充実	多角的支援を行った	4	1年生からの積み上げ	5	4	多角的支援を行った	4	多角的支援を行った		
					入学直後の業者テストの見直しで化学を導入する	従来どおり行った	4	継続実施	4	4	従来どおり行った	4	従来どおり行った		
					生物学を強化する	できた	5	積極的に取り組む	5	5	できた	5	できた		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。		コミュニケーション能力やマナーの向上を図る	従来どおり行った	3	積極的に取り組む	3	3	従来どおり行った	3	従来どおり行った		
					社会人基礎力の強化を図る	従来どおり行った	4	積極的に取り組む	4	4	従来どおり行った	4	従来どおり行った		
					キャリア教育の充実	かなりできた	4	積極的に取り組む	4	4	かなりできた	4	かなりできた		
			(6)学生支援の強化		中退者、除籍者の平均目標値を3.5%以下にする	改善できた	4	積極的に取り組む	4.00%		集計中。		集計中。		
					学生組織、部活動等の活性化を支援する	かなりできた	4	積極的に取り組む	5	4	かなりできた	4	かなりできた		
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化		アクティブ・ラーニングを実施する			積極的に取り組む	3	4	ある程度実施できた。	4	ある程度実施できた。		
					HPを改訂する（全教員年2回）	かなりできた	4	継続実施	4	3	不十分	3	不十分		
					学科として大学の知名度向上を図る手立てを工夫する	従来どおり行った	4	取り組む	4	4	従来どおり行った	4	従来どおり行った		
					学生参加型のオープン・キャンパスを実施しする	従来どおり行った	4	取り組む	5	4	従来どおり行った	4	従来どおり行った		
					必要な入試制度の見直しを行う	検討した	4	取り組む	4	5	AO入試の導入、沖縄入試の実施。	5	AO入試の導入、沖縄入試の実施。		
					社会人の入学への積極的PRを行う	ある程度実施できた	4	取り組む	4	4	ある程度実施できた。	4	ある程度実施できた。		
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化		保護者懇談会、病院説明会を開催する	従来どおりできた	4	積極的に取り組む	4	4	従来どおりできた	4	従来どおりできた		

＊年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　５；とても良い、４；良い、３；ふつう、２；やや不足、１；不足）

①重点施策
- ・国家試験合格率100%を目指す。
- ・生物学を充実させる。
- ・進級チェック機能を導入する。

②理事長・学長とのヒアリング内容
- ・アドミッションポリシーの一層の実用化を図る。
- ・学士力向上のためのディプロマポリシーに関する方針のさらなる実質化を図る。
- ・学修支援を強化する。

平成28年度・事業実施評価表（教育領域）；山陽学園大学大学院看護学研究科

作成日；2016年　5月24日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化		面接等による適正評価を行う。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	4	実施した。	4	実施した	現状を維持する	
					事前相談による研究計画の充実を図る。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	4	実施した。	4	実施した	現状を維持する	
			(2)教養教育の充実化												
			(3)修士力の向上のため、学部・学科・研究科のディプロマポリシーのさらなる実質化。		シラバスを充実させる。	現在検討中である	3	改善の必要な個所は改善する	4	5	検討の上、改善した	5	文科省のガイドラインに基づき改善した	現状を維持し、必要時改善する	
					専門科目を充実させる。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	3	1名教員が退職した。	3	合計2名の教員減となり、補充を要する	必要教員の採用、昇任。	
					成績評価を厳格にする。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	4	実施した。	4	実施した。	現状を維持する。	
					課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	実施している科目もある。	3	さらに推進する。	4	4	実施した。	4	実施した。	さらに推進する。	
					演習における体験教育を充実させる。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	4	実施した。	4	実施した。	現状を維持する。	
					教育研究水準の維持向上に努める。	不十分な部分がある。	3	修士論文発表会の充実、学会への参加。	4	4	実施した。	4	実施した。	現状を維持し、さらに論文投稿を目指す	
			(4)学習支援の強化。		院生用図書を充実させる。	不十分な部分がある。	3	学生及び教員の希望図書の購入を図る。	4	4	実施した。	4	実施した。	さらに充実させる。	
					担当教員制度を活用する。	不十分な部分がある。	3	院生サポートの充実を図る。	4	3	不十分な部分がある。	3	不十分な部分がある。	中間時に院生と研究科長で面談を実施する	
					不足教員を補充する。	不十分な部分がある。	3	教員充足を図る。	4	3	不十分な部分がある。	3	不十分な部分がある。	内部教員の論文数増のための努力を促す。	
					学習環境を整える。	不十分な部分がある。	2	OA機器の充実を図る。冷暖房の整備。	3	3	OA機器の補充は実施した。	3	不十分な部分がある。	冷暖房の使用可能時間の延長を要望する	院生室に水道の設置を是非して欲しい
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。												
			(6)学生支援の強化		学生の勤務状況を配慮した開講を図る。	十分に行われている。	5	現状を維持する。	5	5	時間割調整を図った	5	時間割調整を図った	現状を維持する。	
					院生が利用できる奨学制度を紹介する。	十分に行われている。	5	現状を維持する。	5	5	実施した	5	実施した	現状を維持する。	
					教育訓練給付金対象講座の指定を受ける。	指定を受けている。	5	十分に行われている。	5	5	指定を受けている事について紹介してい	5	指定を受けている事について紹介してい	現状を維持する。	
					日本学生支援機構奨学金返還免除制度を導入する。	申請を行った。	3	適切に運用する。	4	4	規程を設けた	4	規程を設けた	現状を維持する。	
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化		ホームページを改定する。	不十分な部分がある	3	HPを改定する	4	4	改訂した	4	改訂した	更新する	
					大学院の知名度向上を図る手立てを工夫する。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	4	県内外への大学院案内を発送した。	4	看護協会や教員が構師を務める研修会等でPRした	さらに推進する。	
					必要な入試制度の見直しを行う。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	4	検討した	4	Ⅲ期入試を導入し、1名受験した	現状を維持する。	
					社会人の入学について積極的にPRを実施する。	十分に行われている。	4	現状を維持する。	4	4	勧誘について検討した。	4	各教員から声かけした。	実習病院への訪問等を実施する	
					適正な入学生の確保を行う。	不十分である。	2	受験者を増やし定員充足率の増加を図る。	3	2	看護協会や教員が構師を務める研修会等で勧誘した	2	入学予定者は昨年度と同数であった。	看護協会や教員が構師を務める研修会等での勧誘を続ける	
					新規学部卒業生への積極的PRを実施する。	不十分である。	3	積極的PRを実施する。	4	4	学内では、4年生及びその保護者に案内	4	学内では、4年生及びその保護者に案内	在学生や保護者に対しては、早い時期からのPRを行う。	
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化												

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

【重点目標】　・教育研究水準の維持向上に努める。

・院生の学習環境を整える。

平成28年度・事業実施評価表（教育領域）；所属名称　助産学専攻科

作成日；　29　年　　月　　日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価			期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価			
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	命の誕生に真摯に向き合い責任のある行動を育成する	—		助産学科目の全出席と試験合格	5	5	助産学科目への出席率は99%、前期試験、助産学実習には100%合格した	5	助産学科目への出席率は99%、前期試験、助産学実習には100%合格した	今年度と同様	
				2	高い倫理観を育て誠実に助産学を追求できる態度の育成	—		ICM倫理綱領の理解と具体的行動	5	5	授業においてICM倫理綱領を理解し、助産学実習で具体的な行動に移せた	5	授業においてICM倫理綱領を理解し、助産学実習で具体的な行動に移せた	今年度と同様	
				3	母子保健の向上に関心が持てる学生の育成	—		病院・地域での母子保健活動の実践	5	5	助産学実習において病院および地域での母子保健活動を行なった	5	助産学実習において病院および地域での母子保健活動を行なった	今年度と同様	
			(2)教養教育の充実化	1	品性教育の実践	—		品性教育を毎日実践	5	5	4月～6月まで品性教育を毎日実践した	5	卒業時調査において学生からも品性教育が非常に役立ったと評価された	今年度と同様	
				2	母子保健に関する新聞記事の日記化	—		新聞記事の感想文100	5	2	新聞記事の感想文の記載率は、5月以降低迷した	2	後期は助産学実習が中心となり、国試対策に重点をおいたため低迷した	4月～6月の学内期間に始業前学習として100%達成を目指す	
				3	ライフスキル教育の実践	—		2回以上研修会参加	5	5	2回以上研修会に参加した	5	2回以上研修会に参加した	今年度と同様	
				4	読書力の育成	—		1年間に10冊の指定図書の提示	5	2	1年間に10冊の指定図書の提示をしたが、2割程度を読書するのみであった	2	1年間に10冊の指定図書の提示をしたが、2割程度を読書するのみであった	毎月1冊以上の指定図書を読書するように細やかに働きかける	
				5	マナー・礼節指導	—		毎朝，品性のある言葉・敬語・礼節指導	5	5	4月～6月まで品性教育を毎日実践した	5	卒業時調査において学生からも品性教育が非常に役立ったと評価された	今年度と同様	
			(3)学士力の向上のため、学部・学科等のディプロマポリシーのさらなる実質化。	1	倫理的感応力を育成する	—		社会で起こる母子保健に関する倫理的課題を明確にできる	5	5	「生命倫理と生殖医療」「家族社会学」などにより、母子の倫理的課題が明確にな	5	「生命倫理と生殖医療」「家族社会学」などにより、母子の倫理的課題が明確にな	今年度と同様	
				2	生命の尊重・自然性の尊重・智の尊重を育成する	—		助産師のコア・コンピテンシーの実践	5	5	助産学実習により倫理的感応力を基盤とする実践能力を身につけることができた	5	助産学実習により倫理的感応力を基盤とする実践能力を身につけることができた	今年度と同様	
				3	マタニティケア能力を育成する	—		ICM基本的助産業務に必須な能力の実践	5	5	助産学実習においてICM基本的助産業務に必須な能力を身につけることができた	5	助産学実習においてICM基本的助産業務に必須な能力を身につけることができた	今年度と同様	
				4	ウイメンズヘルスケア能力の育成	—		思春期・不妊・更年期・ライフサイクルにおける女性支援に関する科目の履修	5	5	思春期・不妊・更年期・ライフサイクルにおける女性支援に関する科目履修率100%	5	思春期・不妊・更年期・ライフサイクルにおける女性支援に関する科目履修率100%	今年度と同様	
				5	専門的自律能力の育成	—		OSCE試験全員合格	5	5	OSCE試験に全員合格した	5	OSCE試験に全員合格した	演習時間の確保を行い、今年度も100%合格を支援する	
			(4)学修支援の強化。	1	アクティブラーニングの実施	—		母子保健活動への参加	5	5	助産所、助産師会による地域母子保健活動および教員の性教育活動に参加した	5	助産所、助産師会による地域母子保健活動および教員の性教育活動に参加した	今年度と同様	
				2	アカデミックコモンズの設置	—		G202教室	5	5	能動的な学びを展開できる場としてG202教室を助産学専攻科の教室として整備した	5	能動的な学びを展開できる場としてG202教室を助産学専攻科の教室として整備した	今年度と同様	
				3	アドバイザー制度	—		3名の学生に対して1名の教員配置	5	5	3名の学生に対して1名の教員を配置した	5	3名の学生に対して1名の教員を配置した	学生数に合わせて教員を配置する	
				4	国家試験対策	—		学生委員と教員を配置し100%目指す	5	5	学生の国家試験対策委員と担当教員とで対策を連絡調整し、100%を達成した	5	学生の国家試験対策委員と担当教員とで対策を連絡調整し、100%を達成した	今年度と同様	
				5	図書・設備の充実	—		初年度予算内で整備	5	5	予算内で図書・設備を整備した	2	実習に際し、不足したものを補充したことなどから、予算を超える結果となった	学習及び演習等で使用する図書・機器について予算内でより充実させる	
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	1	対人関係スキルの向上	—		品性教育・ライフスキル教育の実施	5	5	6月まで毎朝、品性教育を行い挨拶や言葉遣いを鍛錬することでライフスキル	5	品性教育により培われた態度、言葉遣いは実習施設でも評価を受けた。	今年度と同様	
				2	社会人基礎力の育背鵜	—		学内活動のリフレクションシートの活用	5	5		5			
				3	臨床へのスムーズな移行	—		卒業前演習の実施	5	3	助産学実習終了後、助産技術の確認として口頭試問実施	3	助産学実習終了後、助産技術の確認として口頭試問実施	今年度と同様	
				4	実習施設の充実（就業スタイルの確立）	—		総合病院と個人病院の実習経験	5	5	全員総合病院と個人病院で助産学実習を経験できた。	5	全員総合病院と個人病院で助産学実習を経験できた。	今年度と同様	
				5	資格取得・学会参加の支援	—		母性衛生学会参加・新生児蘇生資格取得、受胎調節実地指導員申請資格取得	5	5	母性衛生学会に全員エントリーし発表。またNCPRは全員合格した。	5	母性衛生学会に全員エントリーし発表。またNCPRは全員合格した。	今年度と同様	
			(6)学生支援の強化	1	アドバイザーの支援	—		月1回の面談と日常支援	5	5	月1回以上の面談と日常支援を各アドバイザーごとに行った	4	実習期間中は面談の確保が難しかったが、実習担当教員との情報交換を行った	実習期間中にも各アドバイザーによる支援体制を整える	
				2	各学生委員を設置	—		学生の声を重視して運営	5	5	各学生員を設置し、学生の声を重視しつつ連絡調整を行った	5	各学生員を設置し、学生の声を重視しつつ連絡調整を行った	今年度と同様	
				3	学修スケジュールの明確化	—		入学前オリエンテーションの実施・ホームルームの開催	5	5	入学前オリエンテーションを実施し、毎朝のホームルームを開催した	5	実習期間以外は毎朝のホームルームを開催した	今年度と同様	
				4	学生間のチームワークの強化	—		親睦会の開催	5	3	入学前オリエンテーションで茶話会を実施したが、親睦会の開催には至らなかった	4	国家試験対策中に茶話会の時間を設け、学生間のチームワークが強化できた	声掛けや茶話会の企画により学生間のチームワークを強化する	
				5	学生相談	—		専攻科長が必要に応じて各専門家と連携	5	5	各アドバイザーからの相談より、専攻科長が必要に応じた各専門家との連携を行った	5	各アドバイザーからの相談より、専攻科長が必要に応じた各専門家との連携を行った	今年度と同様	
				6	臨地実習支援	—		安全管理と健康管理	5	5	セイフティーウォークによる安全管理、実習担当教員による健康チェックを行った	5	セイフティーウォークによる安全管理、実習担当教員による健康チェックを行った	今年度と同様	
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	1	特別推薦における学生の確保の充実	—		学部へのインフォメーション4月・6月	5	3	看護学部へのインフォメーションを4月に実施したが、6月は実施に至らなかった	3	看護学部へのインフォメーションを4月に実施したが、6月は実施に至らなかった	前期・後期の母性授業後等を利用し、インフォメーションを実施する	
				2	入試制度のチェックと見直し	—		専願入試の導入	5	5	専願入試の導入を行った	5	専願入試の導入を行った	今年度と同様	
				3	在学生の広報活動の支援	—		「うまれる」を月一回HPに掲載	5	5	4月～2月まで「うまれる」をHPに掲載した	5	4月～2月まで「うまれる」をHPに掲載した	今年度と同様	
				4	HP，パンフレットの充実	—		入試広報と連携	5	5	入試広報部と連携し、パンフレットの見直しを行った	5	パンフレットの見直しを行い、国家試験合格100%の記事をHPに掲載した	今年度と同様	
				5	地域活動の実施	—		学生の企画案の作成	3	3	実施には至らなかったが、性教育の企画案の作成と学内発表を行った	3	実施には至らなかったが、性教育の企画案の作成と学内発表を行った	今年度と同様	
				6	母子保健活動グループの結成	—		卒業生がいないため，企画案の作成	1	0	母子保健活動グループの企画案の作成には至らなかった	0	母子保健活動グループの企画案の作成には至らなかった	母子保健活動グループの結成を目指し企画案を作成する	
				7	学部特進コースの構想	—		情報収集を行う	1	1	学部特進コースの構想のため他大学等の情報収集を行った	1	学部特進コースの構想のため他大学等の情報収集を行った	学部特進コースの設置に向けた情報収集を続ける	
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	1	就職説明会・インターンシップの参加促進	—		実習調整	5	5	実習調整は実習施設に随時行なった	4	入学制の状況により、H29年度の実習調	入学生状況により、微調整が必要になることも事前に伝えておく	
				2	マナー・礼節指導	—		4月から6月までを強化月間	5	5	4月から6月までを強化月間とし、実施した	5	4月から6月までを強化月間とし、実施した	今年度と同様	
				3	履歴書・志願書の作成指導	—		アドバイザー指導	5	5	アドバイザーを中心に個別の指導を行な	5	アドバイザーを中心に個別の指導を行な	今年度と同様	
				4	キャリア・プランの指導	—		キャリア・プランの作成と具体的指導	5	3	キャリア・プランの作成と具体的指導	3	各学生は入学当初より、明確な希望をも	アドバイザー面接時にキャリアプランに関する指導も随時行なう	
				5	資格取得・進学等の情報提供	—		各資格等の情報提供	5	5	NCPR取得の情報提供により、100%資	5	NCPR取得の情報提供により、100%資	今年度と同様	

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28年度・事業実施評価表（教育領域）；食物栄養学科

作成日；平成28年3月24日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価	
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	従来と同様の評価基準を踏襲した	3	現状を維持する	4	4	従来と同様の評価基準を踏襲した		従来と同様の評価基準を踏襲した	
				2	AO入試で適切な学力評価を行い、良い学生を確保する。	AO入試による入学者数(9名)	4	入学者の15%以上をAO入試で確保する	5	5	確保できた	5	確保できた	○AO入試による入学者15%以上確保する。
			(2)教養教育の充実化	3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	学生からの肯定的な評価が増加	4	知的生き方概論を基盤に更に浸透させる	5	4	浸透させつつある	4	浸透させつつある	
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	さまざまな科目で意識付けを行った	3	学生への自主的・能動的な学習・活動を更に促す	4	4	活動を促している	4	活動を促した	
				5	学園への帰属意識を高める。	学園際に自発的な参加が多数あった	4	学園祭へのクラスやゼミ単位での関与を拡大する	5	4	関与を拡大している	4	関与を拡大してきた	
				6	教養教育科目の開講数増を図る。	教養教育で歴史を開講した	4	社会科学系の開講科目数を増す	4	1	増やすことはできなかった	1	増やすことはできなかった	
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	7	学科のミッションについて学科教員間で議論している。	度々学科会で議論された	2	現状を維持する	3	4	学科会で十分議論された	4	学科会で十分議論された	
				8	校外実習の充実	学生と受け入れ施設の両方から不満	2	学科全体で事前・事後の活動に取り組む	4	3	取り組む体制はできた	3	取り組む体制が整った	
				9	カリキュラムの検討・改善	校外実習を6月と11月に分けて実施した	3	実習時期に合わせて他の教科の履修時期を検討	4	4	年次配当を検討した	4	年次配当を検討・改善した	
				10	シラバスを充実する。	全学の基準に従って作成した	4	教科間での連携を密に行い、質の向上を図る	4	3	教科間の連携を図るよう連携した	3	教科間の連携を図るよう連携した	
				11	シラバスを適正活用する。	一部で厚生局による指導の対象となった	4	シラバスに沿った授業展開	4	4	シラバスにそって展開できた	4	シラバスにそって展開できた	
				12	専門科目について教育成果があがっているか。	実力認定試験受験者数が34名（56%）	3	受験率70%以上を目指す	4	2	目指すよう指導を行った	2	達成できなかった	○栄養士実力認定試験受験率を70%以上90%以上にする。
				13	成績評価を厳格にする。	課題・提出物の評価を厳格化	3	自学自習を適正に評価する	4	4	適性に評価した	4	適性に評価した	
				15	体験交流重視教育を強化する。	一部の教科およびボランティア活動で実施	3	子どもと食育・子育て支援での交流を促進	4	4	促進に努めてきた	4	促進できた	
				16	厚労省の基準に合致した教育内容になっているか。	合致した教育内容を整備している	5	現状を維持する	5	5	教育内容になっている	5	教育内容になっている	
				17	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	健康維持増進に役立つレシピの検討	2	学生の参加を更に促し学科全体で取り組む	4	4	学科全体で取り組んでいる	4	学科全体で取り組むことができた	
				18	学科のための入試制度を活用し、入学者増を図る。	具体化していない	3	学び直しで資格を目指す志願者を取り込む	4	4	技術検定等合格者の入学を増やせた	4	技術検定等合格者の入学を増やせた	○家庭技術検定等合格者入学者を10%以上にする。
				19	センター利用入試の拡大を図り、入学者増につなぐ。	センター試験利用（15名合格、5名入学）	3	入試広報部と連携し入学者増を図る	4	4	連携することができた	4	増加を図る連家ができた	○センター入試利用受験者15名以上、入学者8名以上にする。
				20	クラス顧問制度を充分に機能させる。	クラス会や個人面談を実施した	3	オフィスアワーの活用促進を図る	4	3	活用推進を図った	3	活用推進を図った	
				21	教職課程の設置	設置準備と申請	3	栄養教諭2種免許のための申請作業を行う	4	4	申請作業を進めた	1	申請を保留にした	○教職課程の申請準備と申請を行う。
				22	課題探求型学習・問題解決型学習を導入する	専門演習など一部の演習科目で取り入れた	2	専門演習を2コマ連続で開講するなど工夫	3	3	工夫・検討できなったか	3	工夫・検討できなったか	
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	23	マナーの向上を図る。	校外実習や就職活動を機会とする	4	現状維持	4	4	マナーの向上を図る啓発指導をした	4	マナーの向上を図る啓発指導をした	
				24	社会人教育の強化を図る。	社会人入門やOGとの懇談の中で取り組んだ	2	キャリアセンターとの連携強化	3	3	連携をして行った	3	連携をして行った	
				25	「社会人入門」を充実させる。	内容を検討した	3	キャリアセンターと連携し内容の充実を図る	4	4	充実を図った	4	充実を図った	
				26	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	社会人入門等で活用を促した	3	専門職支援とリンクさせる	4	4	リンクさせるようにした	4	リンクさせるようにした	
				27	PC検定（文書作成）の活用・推進	受講生（12名受験・合格者9名）	3	就活に活用できるように検定受験を促す	4	3	促したが受験は伸びなかった	3	促したが受験は伸びなかった	
				28	漢字検定の活用・推進	受講生（16名受験・合格者13名）	3	就活に活用できるように検定受験を促す	4	3	促したが受験は伸びなかった	3	促したが受験は伸びなかった	○受験率を50%以上。
				29	その他の検定試験の活用・推進	新規の検定試験の導入なし	1	就職に有用な検定試験を導入につい検討7	3	3	検討したが実施に至らなかった	3	検討したが実施に至らなかった	
			(6)学生支援の強化	30	校舎の耐震性を確保し、学生に安全な学習環境を提供する	改善していない	1	将来計画と並行して補強・改築について検討	1	1	改善できていない	1	改善できていない	
				31	食中毒の起こりにくい構造に校舎を改築する。	トイレ手洗い場の衛生環境不十分	2	トイレ手洗い場の改修申請	3	1	改修できていない	1	改修できていない	
				32	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題個所を特定し、改善申請を行う	3	2	改善申請は行わなかった	2	改善申請は行わなかった	
				33	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	語学留学に関する情報提供を行った	3	異文化理解の授業を活用する現状を維持	3	3	現状維持ができた	3	現状維持ができた	
				34	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	退学・除籍率　3.7%　（1年生4名、2年生1名）	4	一人も出さない心構えで取り組む	5	1	取り組んだが多くの退学者が出た	1	取り組んだが多くの退学者が出た	○中途退学者を3.5%以下。
				35	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	学友会や部活動で成果をあげた	4	現状を維持する	4	4	ボランティア活動を積極的に行った	4	ボランティア活動を積極的に行った	
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報線楽の強化	36	ホームページを活性化する。	更新の頻度が低かった	2	全員がニュースを提供し、更新頻度を改善	4	4	ホットニュースの努力した	4	ホットニュースの努力した	
				37	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分であった	3	3回目までに参加者数前年度比2割以上を目指す	4	4	積極的に参加した	4	積極的に参加した	
				38	高校訪問など、迅速な戦略の強化を図る。	入試広報部と情報交換のうえ活動した	3	入試広報部との連携をさらに深める	4	4	連携をして行った	4	連携をして行った	
				39	学生参加型のOCを実施する。	学生よる対応は高校生や保護者に好評	4	学生の意識を高め、対応の質を改善する	4	4	積極的に対応を行った	4	積極的に対応を行った	
				40	必要な入試制度の見直しを行う。	学科の特徴を活かす入試方法の検討	3	専門学校・大学・短大卒業者を取り込む	4	3	取り込むことができなかった	3	取り込むことができなかった	
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援	41	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	入学者数60名	2	専願入試による入学者の割合の向上	4	4	現状維持の状況である	4	現状維持の状況である	入学者80名定員充足率100%。
				42	就職率100%を目指す。	就職率98%	4	第一志望への就職を増やす	5	4	第一志望ばかりはいかなかった	4	第一志望ばかりはいかなかった	就職率100%。
				43	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	26年度を上回る参加者数となった	3	企業研究会参加企業をより多様化し充実させる	4	4	充実させることができた	4	充実させることができた	
				44	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	専門職就職希望者を全員就職させた	4	現状を維持する。質的向上を図る	5	4	現状維持であった	4	現状維持であった	
				45	キャリアセンターと学科が連携し、充分機能している。	就職担当教員が密接に連携を取った	4	連携を更に密にする。	4	4	連携を密にして行った	4	連携を密にして行った	

平成28年度・事業実施評価表（教育領域）；幼児教育学科

作成日；2016年　4月28日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適性評価を行う。	工夫している	4	さらなる検討が必要	4	3	工夫している	4	工夫している		
				2	AO入試で適切な学力評価を行い、入学者を確保する。	AO入学生の減少	2	AO入学生の増加	4	4	9月AO入試の増加	4	AO入試、昨年度より増加		
			(2)教養教育の充実化	3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	従来どおり	4	現状を維持する	4	3	現状を維持する	3	現状を維持する		
				4	健康や文化への価値観を高める。	従来どおり	3	現状を維持する	4	3	現状を維持する	3	現状を維持する		
				5	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	参加学生が増加している	5	前年どおりボランティアを充実させる	4	4	ボランティア参加学生の増加	5	ボランティア参加学生の増加		
				6	学園への帰属意識を高める。	参加学生が増加している	3	さらに参加を促す	4	3	現状維持	3	現状維持		
				7	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	従来どおり	3	現状を維持する	4	3	現状維持	3	現状維持		
			(3)学士力の向上のため、学部・学科等のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	シラバスを充実する。	充実している	4	より一層充実させる	4	4	充実している	4	充実している		
				9	専門科目を充実する。	各教員が工夫し取り組んでいる	4	教員の教材研究を促進させる	4	4	各教員が工夫し取り組んでいる	4	各教員が工夫し取り組んでいる		
				10	成績評価を厳格にする。	各教員が工夫し取り組んでいる	3	より一層充実させる	4	4	学科で検討している	3	各教員が工夫し取り組んでいる		
				11	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	各教員が工夫し取り組んでいる	3	継続する	4	3	各教員が工夫し導入している	3	各教員が工夫し導入している		
				12	体験交流重視教育を強化する。	各教員が工夫し取り組んでいる	4	継続する	4	4	各教員が工夫し導入している	4	各教員が工夫し導入している		
				13	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	学科全体で取り組んでいる	5	継続する	4	4	学科全体で取り組んでいる	4	学科全体で取り組んだ		
				14	音楽教育のより一層の充実	担当教員の工夫が必要	3	継続する	4	3	担当教員の工夫が必要	2	音楽教員の連携不十分		
				15	幼稚園・保育所で必要な技能の習得	よく行われている	4	継続する	4	4	各教員で取り組んでいる	4	各教員で取り組んでいる		
				16	園児指導に必要な知識の獲得	効果が出てきている	3	継続する	4	4	効果が出てきている	4	効果が出てきている		
			(4)学修支援の強化。	17	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	もう少し工夫が必要である	3	さらに広報活動を進める	4	3	もう少し工夫が必要である	3	もう少し工夫が必要である		
				18	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学科で取り組んでいる	3	学科全員で取り組む	4	4	学科で取り組んでいる	4	学科で取り組んでいる		
				19	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	さらなる検討が必要	3	さらなる検討をする	4	3	さらなる検討が必要	3	さらなる検討が必要		
				20	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	学科内の連携は取れている	3	継続する	4	4	学科内の連携し支援している	4	学科内の連携し支援している		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	21	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	学科で取り入れている	3	継続する	4	4	社会人入門で導入し効果が出てきている	4	社会人入門で導入し効果が出てきている		
				22	社会人基礎力の強化を図る。	工夫が必要である	3	継続する	4	4	社会人入門で導入し効果が出てきている	4	社会人入門で導入し効果が出てきている		
				23	学生が自主的にサポートを求めるようにする。	少し効果が見られる	4	さらに広報活動を進める	4	3	効果が出ている	4	効果が出ている		
				24	積極的に施設でのボランティアを行う	学生が積極的にボランティアに参加	4	継続する	4	4	学生が積極的にボランティアに参加	4	学生が積極的にボランティアに参加		
				25	幼稚園・保育所で求められている事を調べる	積極的にさせる工夫が必要	3	さらに自主学習を勧める	4	3	効果が出てきている	3	効果が出てきている		
			(6)学生支援の強化	26	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	もう少し工夫が必要である	3	さらに工夫を継続する	4	3	連携が必要	3	連携が必要		
				27	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	継続的に行っている	3	継続する	4	3	継続的に行っている	3	継続的に行っている		
				28	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	さらに点検し、改善を進める	3	さらに点検し、改善を進める	4	3	推進に努める	3	推進に努める		
				29	生活困難学生への相談活動を行う	よく行われている	3	継続していく	4	4	良く行われている	4	良く行われている		
				30	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	不十分な点がある	3	学科全体の学生相談活動を活発にする	4	5	退学者減少	5	退学者減少		
				31	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	よく行われている	4	継続する	4	4	良く行われている	4	良く行われている		
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	32	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	まずまず行われている	3	確実な実施に向けて努力する	4	3	実施に向けて学科で検討	3	学科で継続的に検討		
				33	ホームページを改定する。	学科のHP更新は頻繁に行っている	4	継続していく	5	4	学科のHP更新は頻繁に行っている	5	学科のHP更新は頻繁に行っている		
				34	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する。	十分行っている	3	さらに学外へのPRに力を入れる	5	4	学科で検討している	4	独自で高校訪問を行う		
				35	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	検討が不十分	3	入試広報部との連携を深める	5	3	入試広報部と連携し学科で検討	4	入試広報部と連携し学科で検討		
				36	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分である	3	入試広報部との連携を深める	5	3	徐々に連携が取れてきている	3	連携し新たな戦略を検討実施		
				37	学生参加型のOCを実施する。	よく行われている	4	参加学生の検討が必要	4	4	参加学生の選抜・指導	4	参加学生の指導		
				38	幼児教育学科と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	入試広報部との連携が不十分	3	入試広報との連携を今以上に密にする	5	3	徐々に連携が取れてきている	3	連携し新たな戦略を検討実施		
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	39	就職率（100%）の維持を図る。	現状を維持する	5	就職率100%を維持する	5	4	活動中	5	就職率100%を維持		
				40	保護者懇談会・就職懇談会等を開催する。	効果は上がっている	4	継続的に開催し、効果を上げる	4	4	効果は上がっている	4	効果は上がっている		
				41	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	よく行われている	4	より一層充実させる	4	4	よく行われている	4	よく行われている		
				42	学科に直接来る就職情報を活用する	よく行われている	4	引き続き活用を継続する	4	4	活用している	4	活用している		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28年度・事業実施評価表；健康安全推進機構

作成日；　年　月　日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
	本学の安全保持・増進を統括および学生・教職員の健康保持・増進	危機管理	自然災害の危機の予防・最小限にする	1	地震・津波の危機を最小限にする	防災訓練，防災マニュアル，安全按針メール登録	5	防災訓練の実施	5	5	防災訓練の実施	5	防災訓練の実施		
				2	風水害（台風・大雨・落雷）の危機を最小限にする	防災訓練，防災マニュアル，安全按針メール登録	5	大学内設備の点検	5	3	大学内設備の点検	3	大学内設備の点検		
				3	1．2に備えた予防行動がとれる	防災訓練・安心安全メール登録70%	4	安心安全メール登録100%	4	4	安心安全メール登録100%	4	安心安全メール登録100%		
			健康危機の予防・最小限の被害にする	1	致死率または感染力が高い重篤な感染症の発生をおこさない	一部専門家と対応	4	治癒照明提出の徹底，集団インフレエンザワクチン接種	5	5	治癒照明提出の徹底，集団インフレエンザワクチン接種	5	治癒照明提出の徹底，集団インフレエンザワクチン接種		
				2	衛生管理体制の問題や大規模な食中毒発生をおこさない	大学祭模擬店健康チェック施行	5	大学祭模擬店検便再開	5	5	大学祭模擬店検便再開	5	大学祭模擬店検便なし		
				3	毒劇物・有害物等の管理体制の問題をなくす	毒劇物・有害物把握・管理	5	毒劇物・有害物把握・管理	5	5	毒劇物・有害物把握・管理	5	毒劇物・有害物把握・管理		
				4	1・2・3に備えた予防行動がとれる	健康管理教育・手洗い等の呼びかけ	3	正しい手洗い法の習得	5	4	正しい手洗い法の習得	4	正しい手洗い法の習得		
			重大事故危機の予防・最小限の被害にする	1	大規模な火災・爆発等の発生を防ぐ	防火管理の徹底	5	火元安全管理者の明確化	5	3	火元安全管理者の明確化	3	火元安全管理者の明確化		
				2	危険物・毒物の大量流出を防ぐ	危険物・毒物の把握・管理	5	管理者の明確化	5	2	管理者の明確化	2	管理者の明確化		
				3	交通事故をなくす	交通事故前年度より増加	2	自転車・自動車のマナー向上	4	4	自転車・自動車のマナー向上	4	自転車・自動車のマナー向上		
				4	入試中の事故の防止	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				5	授業中・課外活動中の事故の防止	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				6	業務中の事故の防止	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				7	施設の保守管理による事故の防止	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
			重大事件危機の予防・最小限の被害にする	1	教職員・学生の違法行為の防止	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	6	6	事故防止の徹底	6	事故防止の徹底		
				2	会計上の不正行為	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				3	研究倫理的に不正な行為	研究倫理研修会の全員参加（FD・SD）	5	研究倫理研修会の全員参加（FD・SD）	5	5	研究倫理研修会の全員参加（FD・SD）	5	研究倫理研修会の全員参加（FD・SD）		
				4	不審者の侵入	事故防止の徹底が出来た	5	監視カメラ設置	4	4	監視カメラ設置	4	監視カメラ設置		
				5	盗難事件	事故防止の徹底が出来た	6	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				6	入試業務のミス	問題の訂正	4	マニュアル等の見直し	4	4	マニュアル等の見直し	4	マニュアル等の見直し		
				7	個人情報漏洩	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				8	コンピューター・ネットワーク関連	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				9	学生による事件・犯罪・不祥事	事故防止の徹底が出来た	5	事故防止の徹底	5	5	事故防止の徹底	5	事故防止の徹底		
				10	教員による事件・犯罪・不祥事	事故防止の徹底が出来た	6	事故防止の徹底	6	6	事故防止の徹底	6	事故防止の徹底		
		産業保健	職場環境整備・労働衛生が保たれる	1	職場環境整備	職場環境の整備に関する事業なし	1	職場の環境整備に関する調査	4	4	職場の環境整備に関する調査	4	職場の環境整備に関する調査		
				2	労働災害の減少	通勤時の事故の増加	3	通勤時の交通事故減少	5	5	通勤時の交通事故減少	5	通勤時の交通事故減少		
				3	労働時間の適正化	労働時間に関する事業無し	1	労働時間の管理	4	4	労働時間の管理	4	労働時間の管理		
			教職員健康管理が出来る	1	定期健康診断	定期健康診査90%	5	定期健康診査100%	5	5	定期健康診査100%	5	定期健康診査100%		
				2	メンタルヘルス	ストレスチェック研修（SD・FD）	5	ストレスチェック実施	5	5	ストレスチェック実施	5	ストレスチェック実施		
				3	健康相談	健康相談実績なし	1	健康相談の再開	4	0	健康相談の再開	0	健康相談の再開		
		学校保健が充実する	学校保健管理ができる	1	保健管理	学生部が主体となって実施	4	専門家との連携の明確化	4	2	専門家との連携の明確化	2	専門家との連携の明確化		
				2	安全教育・指導	安全教育・指導が出来た	4	安全教育・指導（知的生き方概論）	4	4	安全教育・指導（知的生き方概論）	4	安全教育・指導（知的生き方概論）		
			学生の健康管理ができる	1	健康診断の実施	健康診断受診99%	5	健康診断内容の見直し，受診100%	5	5	健康診断内容の見直し，受診100%	5	健康診断内容の見直し，受診100%		
				2	健康診断後の措置	個別フォローが出来ている	5	個別フォローの体制の見做し	5	5	個別フォローの体制の見做し	5	個別フォローの体制の見做し		
				3	健康相談	個別対応	3	健康相談システムの構築	4	4	健康相談システムの構築	4	健康相談システムの構築		
				4	応急処置	第一次応急処置は出来た	4	応急処置時の対応マニュアルの作成	4	4	応急処置時の対応マニュアルの作成	4	応急処置時の対応マニュアルの作成		
				5	感染性対策	感染対策が出来た	4	季節毎のトレンドの把握と教育	4	4	季節毎のトレンドの把握と教育	4	季節毎のトレンドの把握と教育		
				6	健康管理記録の管理	個人情報保護に関する課題	2	管理の見直し	5	5	管理の見直し	5	管理の見直し		
			学生相談室の充実	1	学生の悩み相談全般	相談室の開設	5	相談室の充実	5	5	相談室の充実	5	相談室の充実		
				2	学生生活適応への支援・連携	学生生活適応への支援・連携が出来た	4	障がい学生支援の徹底	5	3	障がい学生支援の徹底	3	障がい学生支援の徹底		
				3	ピアサポーターの育成	サポーターの支援	4	サポーターの育成	5	0	サポーターの育成	0	サポーターの育成		
				4	セルフケアに向けた教育活動	出張講義	4	人間学・知的生き方概論での教育	5	2	人間学・知的生き方概論での教育	2	人間学・知的生き方概論での教育		
				5	関係諸機関との連携	関係諸機関との連携が出来た	4	連携機関の連携体制の明確化	4	4	連携機関の連携体制の明確化	4	連携機関の連携体制の明確化		
			障害学生支援	1	大学入試・高校及び特別支援学校と大学等との接続の円滑化	情報収集まで行った	3	入学生受け入れに関する申し合わせ事項の作成	5	2	入学生受け入れに関する申し合わせ事項の作成	2	入学生受け入れに関する申し合わせ事項の作成		
				2	通学上の困難の改善	情報収集まで行った	3	個別対応	4	4	個別対応	4	個別対応		
				3	授業・課外活動への支援	障がい学生支援マニュアルの作成	5	マニュアルの見直し	4	3	マニュアルの見直し	3	マニュアルの見直し		
				4	就職支援	実施無し	1	就職支援に関する情報収集	4	4	就職支援に関する情報収集	4	就職支援に関する情報収集		
				5	専門的知識向上に向けた研修	情報収集まで行った	3	研修会実施（SD/FD）	5	3	研修会実施（SD/FD）	3	研修会実施（SD/FD）		
				6	ピアサポート	情報収集まで行った	3	ピアサポートボランティアの育成	4	0	ピアサポートボランティアの育成	0	ピアサポートボランティアの育成		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28年度・事業実施評価表（大学運営）；学生部

作成日；29年　3月　1日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価			期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価			
大学運営	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成	学生支援	学生生活支援の強化	1	学生食堂の充実	学生の要望について対応できた	4	学友会アンケートに基 づき取り組みを継続	4	4	丼ものメニューを更新した、また来年度より食堂の場所を変更することと	4	学生の要望について対応できた		
				2	学生寮の充実	要望を事務局に提出	3	取り組みを継続 入居率の向上	4	4	トイレの改修（和式を洋式に）ついて継続して実施することとした	4	概ね学生の要望に対応できた		
				3	外国人留学生生活支援	連携が取れた取り組みができた	4	取り組みを継続	4	3	アパートトラブルや保健所対応など連携して取り組んだ	3	連携した取り組みができた		
				4	学習習慣の向上	学生部のみの取り組みとなった	3	内容の検討	4	1	キャリア、教務部と連携した 取り組み内容が見いだせた	1	今後も引き続き検討が必要		
			課外活動支援の強化	5	学友会、部長会等の活性化支援	昨年を上回っている	4	前年度取り組みを継承	4	4	130周年のため取組を企画し	2	活動参加学生の増加が必要		
				6	クラブ活動	昨年を上回っている	4	前年度取り組みを継承	4	3	参加学生減少のため来年度に向けた相談・指導を行った	2	活動参加学生の増加が必要（28年度参加率1年生４２％）		
				7	学生による自主活動	昨年を上回っている	4	前年度取り組みを継承	4	3	学外からの依頼の調整・相談 などの支援を行った	3	例年並みの活動ができた		
				8	支援ボランティア活動	従前通り実施した	3	前年度取り組みを継承	4	3	従前とおりの紹介等を行った	3	例年並みの実施		
			健康管理と防犯・防災	9	身体の相談窓口の具体化	引き続き検討が必要	3	引き続き検討が必要	4	5	今年度より障がい学生支援のガイドラインを策定し実行したことにより達成で	5	目的が達成できた		
				10	メンタルヘルスの推進に努める	緊急対応が円滑に行 なえた	4	前年度取り組みを継承	4	4	全般的に円滑な対応が行 えている	4	円滑な対応が行えている		
				11	学内禁煙推進の強化を図る	取り組みの効果がみられる	4	前年度取り組みを継承	4	4	学外フェンスへの禁煙パネ ルの設置などにより喫煙	4	取り組みの効果が見られる		
				12	安全安心・危機管理（防犯・防災） の推進に努める	登録率の向上が必要	3	前年度取り組みを継承	4	4	学生の登録率は91％であった。（27'は85%） 防犯注意指導など的確に行なえた	4	登録率の維持向上		
				13	事故防止を推進する	的確に取り組みが行えた	4	前年度取り組みを継承	4	4	緊急時メールや交通安全講習など的確に行なえた	4	前年度取り組みを継承		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28年度・事業実施評価表（外国人留学生）；共生・グローバル推進センター

作成日；2017年2月27日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	1．日本に対する理解度の向上を図る	1	書類の記入や履修規程などの読み方を丁寧に教える。	十分に行われている	5	現状維持	5	5	今後も引き続き努力する	5	目標到達		
				2	日本社会・大学のルールや規則について指導する。	やや不足	3	分かりやすい言葉で説明する	4	4	現状を維持している	3	指導に従わない者もいる		
				3	家賃の支払い、ゴミの出し方など生活習慣についても指導する。	改善の余地がある	3%	辛抱強く説明、指導する	4%	3	家主さんから苦情が出ると迅速に対応	4	家賃、保険料を滞納する者がいる		
			2．大学生活支援の強化	4	入学前オリエンテーションを行う。	効果上々	5	現状維持	5	5	今後も引き続き努力する	5	現状維持		
				5	入管関連の諸手続きを取り扱う。	スムーズに行われてきた	5	現状維持	5	5	現状を維持している	5	現状維持		
				6	奨学金申請・選考を行う。	今まで円滑に実施してきた。	5	現状維持	5	5	推薦枠が年々減らされたことに苦慮	5	現状維持		
				7	住宅保証関連の更新手続き	家賃・保険料の納入督促を行う。	3	新規保証人になることを廃止。更新限定	3	3	保証人の要らない物件を斡旋	4	平成28年度から廃止した		
				8	一日研修旅行・国際交流活動の充実化を図る。	参加した留学生は皆満足していたようだ	4	参加の呼びかけにもっと力を入れる	4	4	参加を呼び掛ける工夫が必要である。	4	参加希望者が激減、日本人学生の参加も		
			3．個別相談の充実化を図る	9	生活相談などに随時応じる。	アルバイトの求人情報が不足	3	ベトナム人留学生への説明を工夫	4	3	電話をかけても出ない者が多い	4	連絡が取れない場合、自宅訪問を実施		
				10	保証人の要らない住宅の情報を収集、提供する。	住宅関連情報が少ない	2	なるべく保証金の要らない物件を紹介	3	3	把握した物件数がまだ少ない	3	市内にある3軒不動産屋と連絡している		
				11	単位修得などの質問に応える。	教務との連携しながら行ってきた	4	現状維持	5	4	現状を維持している	4	現状維持		
				12	トラブルが発生した場合、速やかに対応する。	アドバイザ教員と連携しながら対応する	4	なるべく拡大しないように処理する	4	3	反抗的態度をとる者もいる	3	トラブルが二件ほどあった		
				13	交通安全・防犯などの教育を行う。	講習会への参加者数は少ない	3	参加の呼びかけに力を入れる	4	4	概ねうまく行っている	4	現状維持		
			4．留学生の就活力・就業力の向上を図る	14	日本語コミュニケーション能力やマネーの向上を図る。	就職支援講座への参加が少ない	2	就職支援科目への履修を促す	3	2	自力で就活を行うという国民性	3	留学生の就職は自力でやるケースが多い		
				15	社会人基礎力の強化を図る。	習慣や文化の違いからトラブルが起こる	3	根性強くしつけする	3	3	現状を維持している	3	指導の強化をはかる		
			5．就職支援体制の強化	16	積極的に会社訪問を行い、本学の留学生を売り込む。	僅かながら内定数が増えている	3	キャリアセンターと連携し、努力する	4	3	企業を開拓する努力は要る	4	2月14日現在、内定を得た留学生は8名		
				17	就職情報を集め、留学生に提供し、OBの活躍をPR。	本学卒業の留学生を採用する企業が増えた	4	機構の機能を一層高める	4	4	現状を維持している	4	情報収集、提供に努める		
				18	希望者に対して履歴書の書き方や模擬面接など指導を行う。	手答えはあった	3	機構の機能を一層高める	3	3	今後も引き続き努力する	3	積極的に就活に参加する者が少ない		
		留学生募集と入試広報戦略	6．留学生募集活動の強化	19	県内外の日本語学校を訪れ、業者主催の進学説明会にも参加。	中国人留学生が激減した	3	優秀な留学生を増やす努力が必要	4	4	日本語学校からの問い合わせが増えて	4	日本語能力試験合格者5名が入学した		
				20	本学の知名度アップを図る	大いに改善する余地がある	2	地元メディアに売り込む方策を考える	3	2	方法を模索中	2	在学生、卒業生の口コミに頼るのが実情		
				21	在学生に働きかけ、後輩や友達を連れてくるように依頼	一本釣りの手法で地道にやるしかない	4	日頃の信頼関係を保つように	4	4	努力中	3	卒業生・在学生からの問い合わせが多い		
				22	電話やメールなどによる個別相談に随時応じる。	個別相談や個人見学にも対応する	4	現状維持	4	4	現状を維持している	4	現状維持		
				23	日頃、日本語学校の教員と信頼関係を築き、関連情報を入手。	留学生の推薦を依頼する	3%	編入を含めて志願者40名獲得を目標に	4%	3	長年のお付き合いを大切にする	4	Ⅲ期を除く実績25名（協定校編入を含む）。		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　５；とても良い、４；良い、３；ふつう、２；やや不足、１；不足）

平成28年度・事業実施評価表（大学運営）；キャリアセンター

作成日；2017年4月21日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教　育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成	学修支援強化	学生の学習習慣の確立	1	図書館と連携して新社会人として役立つ推薦図書の選定	図書館と連携して新社会人として役立つ推薦図書を選定した	3	前年度同様に選定する	3	3	前年度同様に選定した	3	前年度同様に選定した		
		キャリアサポートと就職支援の見直し強化	就職率の維持、アップ	2	各学科とも就職率の目標値（95～100%）の維持、アップを図る	目標値は達成している	4	就職率95～100%を目指す	4	4	前年度と同様に推移している	3	言語文化学科以外は目標値を達成した		
			適性検査等の活用	3	学生へのフィードバック、業者の説明会、WG会員との情報共有を行い就職指導に活用する	学生へのﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ、業者の説明会、WG会員との情報共有を行い、活用した	3	前年度同様に実施する	3	3	学生へのﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ、WG会員との情報共有を行い、活用した	3	学生へのﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ、WG会員との情報共有を行い、活用した		
			一般就職、専門就職への対応	4	一般職志向の総合人間学科と専門職志向の看護学部、短大の特性に応じた支援の強化	特性に応じて支援した	4	前年度同様に行う	4	4	前年度と同様に支援した	4	前年度と同様に支援した		
			就職懇談会、業界研究会等の開催	5	就職懇談会や各学科に対応した業界研究会等の開催	各学科に応じて開催した	4	前年度同様に開催する	4	4	前年度と同様に開催した	4	前年度と同様に開催した		
			各種キャリア支援システムの充実	6	正課内（インターンシップ、社会人入門）・正課外（ホテルエアラインプログラム、資格支援）の支援、キャリアサポートシステムやキャリアサポートラボの充実、利用促進	計画通り支援、利用促進が図れた	3	前年度同様に実施する	3	3	計画通り支援、利用促進が図れた	3	計画通り支援、利用促進が図れた		
			就職活動時期の変更への対応	7	就職活動時期の前倒し、後ろ倒しへの適切な対応	キャリアセンターWG員を中心に各学科と連携を図り適切に対応した	3	前年度同様に対応する	3	3	キャリアセンターWG員を中心に各学科と連携を図り適切に対応した	3	キャリアセンターWG員を中心に各学科と連携を図り適切に対応した		
			学生・卒業生等アンケート調査の活用	8	在学生、卒業生のアンケート調査を実施し、就職支援に活用する	実施していない	―	実施に向けて準備し、就職支援に活用する	3	3	在学生、卒業生のアンケート調査を実施し、就職支援に活用した	3	在学生、卒業生のアンケート調査を実施し、就職支援に活用した		
		看護学部	各学部、学科に応じたキャリアサポートの充実	9	就職率95～100%を目指す	目標値を達成した	100%	この水準を維持する	95～100%	4	前年度と同様に推移している	4	目標値を達成した（100.0%）		
				10	病院説明会等を開催する	助産学専攻科実習病院を追加して開催した	4	前年度同様に実施する	4	4	前年度と同様に実施した	4	前年度と同様に実施した		
		総合人間学部	各学部、学科に応じたキャリアサポートの充実	11	就職率95～100%を目指す	目標値を達成した	98%	この水準を維持する	95～100%		前年度と同様に推移している	3	言語文化学科以外は目標値を達成した		
				12	業界研究会等を開催する	卒業生による業界研究会を計画通り実施した	4	前年度同様に実施する	4	4	前年度と同様に実施した	3	前年度と同様に実施した		
				13	各種のキャリアサポート・就職支援を実行し、就職先の質の向上と学生満足度の向上を目指す	前年度同様に支援した 特に面談等個人指導は充実していた	4	前年度同様に実施する	4	4	前年度と同様に実施した	4	前年度と同様に実施した		
		食物栄養学科	各学部、学科に応じたキャリアサポートの充実	14	就職率95～100%を目指す	目標値を達成した	98%	この水準を維持する	95～100%	4	前年度と同様に推移している	4	目標値を達成した（100.0%）		
				15	業界研究会等を開催する	栄養士等業界研究会を計画通り実施した	4	前年度同様に実施する	4	4	前年度と同様に実施した	4	前年度と同様に実施した		
				16	各種のキャリアサポート・就職支援を実行し、就職先の質の向上と学生満足度の向上を目指す	前年度同様に支援した 特に面談等個人指導は充実していた	4	前年度同様に実施する	4	4	前年度と同様に実施した	4	前年度と同様に実施した		
		幼児教育学科	各学部、学科に応じたキャリアサポートの充実	17	就職率95～100%を目指す	目標値を達成した	100%	この水準を維持する	95～100%	4	前年度と同様に推移している	4	目標値を達成した（100.0%）		
				18	業界研究会等を開催する	保育士合同面接会を計画通り実施した	4	前年度同様に実施する	4	4	前年度と同様に実施した	4	前年度と同様に実施した		
				19	各種のキャリアサポート・就職支援を実行し、就職先の質の向上と学生満足度の向上を目指す	前年度同様に支援した 特に面談等個人指導は充実していた	4	前年度同様に実施する	4	4	前年度と同様に実施した	4	前年度と同様に実施した		

平成28年度・事業実施評価表（大学運営）；入試広報部

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価	
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価
大学運営	入試広報戦略の強化を図り、入学者増につなげる。	広報活動	本学の認知度向上及びｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽへの参加や入試への動機づけができている。	1	大学案内・募集要項の作成	12月～3月の入試期間における作業が停滞し、本年度の編集が遅れた。	2	適切な進行管理による納期の厳守と次年度の編集に計画的に着手する。	5	2	編集作業の進行管理が不十分で、発刊が遅れた。この後来年の業者のコンペを実施する。	3	本年度の発刊が遅れて6月になった。次年度版は、5月初旬発刊で作業を進めている。
				2	ホームページのリニューアル	・設計が古く、他大学と比べて視認性、機能性等で劣っており、再設計が必要。 ・コンテンツの作成、チェック等のルールがなく組織的な運用ができていない。現体制の運用に限界がきている。	2	更新頻度を上げ、掲載内容作成担当を明確化する。表現や掲載期間等のチェック機能構築し、情報セキュリティを強化する。	4	3	企画部の主管でリニューアル作業が行われ、協力して取り組んだ。入試関係の情報を確実に移行した。	3	企画部のリニューアルに協力して取り組んだ。当部の情報について適宜更新している。
				3	高校訪問や進学説明会に用いる資料（大学案内ダイジェスト版）の作成と活用	高校訪問や進学説明会における説明の標準化ツールとして活用できた。	4	5/18の高校訪問事前研修会までに作成を完了する。	4	3	研修会に間に合わなかったが、訪問用OAと言語文化パンフレットを新たに作成した。	3	研修会に間に合わなかったが、訪問用OAと言語文化パンフレットを新たに作成した。
				4	スマートホンとホームページの連動	新規	－	ホームページ再設計の際に対応する。	4	3	HPのリニューアルで対応した。	3	HPのリニューアルで対応した。
				5	大学案内・募集要項の電子化	新規	－	5月中に完了する。	3	2	旧HPには対応したが、新しいHPになって対応できていない。	3	新しいHPにも対応した。
				6	学生ボランティアを活用した広報開始	新規	－	ボランティアを募集し新しい取組をする。	3	4	出身校訪問の制度を新たに設けた。今後は学生に周知して定着を図りたい。	5	出身校訪問を制度化し、次年度の大学案内に掲載する学生の写真を大幅に増やした。
				7	TVCMの活用	他大学のCMと比較してインパクト感に欠けた。	2	本学の特色を打ち出し、インパクト感を創出する。	4	1	OCに間に合うよう作成できなかった。秋以降の作成について学内で了解が得られなかった。	1	時期を逸して作成できなかった。TVCMの意義について共通理解が必要である。
				8	新聞等の活用	県内大学が揃って掲載される紙面には参加した。	3	地元紙等に積極的に広告を掲載する。	4	4	予定の新聞広告と、駅構内の看板広告、路面電車広告等を新たに行った。	5	駅構内看板広告、路面電車広告、新聞に加え、県HPバナー広告等を行った。
		高校訪問	高校と良い関係を築き、本学の特徴を十分に伝えることができている。	9	高校訪問の実施	高校訪問に特化した担当者が高校との繋がり重視の訪問を実施した。	3	適切な人選と恒常的な訪問を実施する。	5	2	他大学に比べて入試広報のマンパワー不足。学科と連携した効果的な訪問で補いたい。	2	他大学に比べてマンパワーを含めて弱い。学科と連携した効果的な訪問が今一歩。
				10	在学生による母校訪問の実施	新規	－	制度化して適切なメンバーで実施する。	3	4	新たに制度化して実施開始。長期休業日前に奨励したい。	4	新たに実施し、制度として定着しつつある。
		進学説明会		11	業者主催の進学相談会への参加	昨年の懇談者数を指標として参加会場を選定し、意欲的に参加した。	4	費用対効果を考えて効率的な会場に参加して本学の知名度を上げる。	4	3	香川、愛媛など、他県での知名度が低い。隣接県での回数を増やしたい。	3	香川、愛媛など、他県での知名度が低いため、年度の後半は参加回数を増やした。
				12	本学主催の進学相談会の実施	予定通り実施したが、福山会場の参加数が少なかった。	3	実績の少ない高校に積極的に訪問し、参加者へリピートの促す葉書を送付する。	4	2	予定通り実施しているが、参加校が増えていない。	2	予定通り実施したが、参加校が増えるに至らなかった。強み、ウリの再構築が必要。
		大学見学会 オープンキャンパス		13	学年・クラス単位での見学会の実施	今まで見学に来ていた高校の参加が減少した。	2	見学会の申し込み数の増加を図る。	4	3	高校の要望に対応した。こちらから特定の高校に見学会を持ちかけることを企画したい。	3	高校の要望に対応した。新たに2月に特定校を対象にした大学見学会を実施した。
				14	オープンキャンパスの実施・充実	参加者が対前年85%と大きく減少した。	3	内容充実による参加増と満足度向上、在学生の参加による親近感をアップする。	5	2	学食体験の回数を増やしたが、9月までのOCでは参加者数が減少している。	2	学食体験の回数を増やしたが、思い切った新規の取組はできず参加者が減少した。
		入試制度 入試業務	ミスなく入試を実施するとともに、入試改善により定員が充足している。	15	Web出願システムの活用とミスのない運用	全志願者の約10%が利用し、特に一般試験以降の出願に有効だったと思われる。	4	PRして願書（紙媒体）の削減を図る。	4	3	一般推薦までの利用は昨年並みで、今後の入試での利用を期待したい。	4	利用者が増加し、事務の合理化になった。
				16	本学入試、センター入試の確実な業務遂行	全学挙げた体制により、事前研修から本試験実施までミスなく実施できた。	5	事前打合せ等を徹底して、厳正、公平、確実を旨としてミスなく実施する。	5	4	特別推薦、AO、一般推薦はミスなく実施できた。	3	特別推薦からセンターまでは順調に実施できた。一般試験で問題訂正が必要になった。
				17	AO入試の早期化実施と入試改善		－	AO早期化により受験者増を図る。また、さらなる改善策を企画する。	3	4	AOの早期化は目的意識の高い志願者を確保につながっている。	4	早期化は一定の効果があった。次年度の看護AO入試、沖縄会場実施を決定した。
				18	特別奨学生・奨学金制度の見直し	新規	－	現在の奨学生枠を有効活用する。	3	4	採用枠を見直し、新特典（英語、家庭）の導入を決定した。新特典の効果に期待したい。	4	採用枠を見直すとともに、新特典（英語、家庭）を導入した。新特典は効果があった。
		学部等連携	学部・学科、山陽女子高校と連携がとれていて対策が実行できている。	19	入学者増に向けた各学科と連携強化	学科の特色をうまく伝えられなかった。	3	コース開設、IELP、ﾋﾞｼﾞﾈｽ能力開発、企業連携型PRGの広報を強化する。	4	2	学科との学校訪問の役割分担が徹底しておらず、一体的な広報ができていない。	3	学科との学校訪問の役割分担が不徹底だったが、後半に協力体制ができかけた。
				20	競合校と比較した際の優位性アピール	優位性を見つけることができずPRできなかった。	2	各種実績等を大学案内に掲載するなどして、優位性の創出とPR方法を工夫する。	4	2	本学の新しい強みやウリが乏しく、施設を含め他大学と比べてPRのネタに苦しんでいる。	2	本学の強みやウリの再構築が遅れている。PRのネタに苦しい。改善が急務である。
				21	山陽女子高との連携（保護者会、進学説明会、みさお祭、OS）強化	山陽女子高校教員と情報交換する機会をもう少し増やす必要があった。	3	女子高教員と同学園の一員であることを共有し学生増の進路指導を依頼する。	4	3	例年どおりの取組に加えて、1年生の大学見学が復活した。	3	1年生の見学が復活したが総じて例年どおり。学科の高大連携が望まれる。
		現状把握	現状把握ができており、課題抽出、対策の立案、実行ができている。	22	アンケート調査（OC、入学者）の集計・分析	分析するが行動計画への反映が不十分だった。	3	分析に基づいた実施計画を策定し、確実に実行することにより改善を図る。	3	3	OCのアンケート結果等を教授会等に報告しながら共通理解を図っている。	3	OCのアンケート結果等を教授会等に報告するとともに、OCの内容の改善に活用した。
				23	高校教員からの聞き取りと資料請求の傾向把握	相次ぐ個人情報漏えい（全国的）により、高校生が資料請求に慎重になっている。	3	高校教員と良好な人間関係を構築し、資料請求数の向上を図る。	4	3	高校の進路担当者一覧を作成し、学校の様子や要望の聴取などをこまめに行っている。	3	高校の様子や要望の聴取など、情報収集できる関係構築ができつつある。
				24	学内外の学生募集に関する情報収集、アイディアの聴取。各種事業の取組の軌道修正	前年踏襲的な仕事の進め方になっており、新しい発想による取組や見直しが十分でない。	3	入試WG会議を定期的に開催し、合同会議・法人等へ適切な連絡報告を行う。	4	4	早めに入試WG会議に開催して、学科の理解・協力を得ながら取組を進めている。	4	積極的な情報収集・提供に努め、年度途中からも新規の取組を実施した。

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28年度・事業実施評価表（大学運営）;図書館

作成日;2017 年 3 月 7 日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育（学習支援）	学生の主体的な学習活動を支援するために必要な学術情報および学習環境を整備し、学術情報リテラシー教育を充実させる。	資料の充実	学生が満足する蔵書構成ができている	1	カリキュラムと直結した資料を整備する	希望図書で出されたものはほとんど購入	4	カリキュラムに沿った資料収集	4	4	希望図書で出されたものはほとんど購入	5	希望図書で出されたものはほとんど購入した		
				2	学生の希望資料を購入する	蔵書としてふさわしくないもの以外は、全て購入	5	学生の希望資料を把握する	4	4	蔵書としてふさわしくないもの以外は、全て購入	4	蔵書としてふさわしくないもの以外は、全て購入した		
				3	シラバス掲載資料を購入する	全て購入している	5	シラバス掲載の参考図書を購入	5	5	全て購入している	5	全て購入している		
				4	データベース等の電子コンテンツを整備する	予算との関係があり、十分とは言えない	3	電子資料の利用方法の推進	3	3	検討中	4	新規データベースの購入と利用の促進を図った		
				5	貸出冊数、入館者等が増加している	貸出冊数、入館者等の減少が止められなかった	2	貸出冊数、入館者等の回復を目指す	3		—	4	上向き傾向である		
		リテラシー教育の充実	利用教育が充実している	6	オリエンテーションを行っている	来年度に向け、内容の検討は必要	3	内容を充実させる	3	2	準備不足	3	内容の見直しが十分でなかった		
				7	文献ガイダンスを行っている	例年並みの参加者数	3	確実な検索ができるように指導	3	4	前期26回行った	4	年間30回行った		
				8	文献複写・相互貸借等の利用促進を図る	複写依頼の減少（学生・教員とも）	3	利用の少ない学科の利用促進	3	3	学科によって利用度に差がある	3	昨年並みの数値に（依頼：490、受付：280）		
		利用促進	学生の興味を引く企画を立てている	9	ブックハンティング等を計画し、学生選書を行う	実施しているが、参加者が偏っている	3	各学科からの参加学生を増やす	3	3	学科により偏りがある	3	参加する学科が決まってきており、新規の希望者が少ない		
				10	テーマに沿った展示を行い、学生の興味を呼び起こす	回数が少なく、不十分である	3	興味を引く展示をする	3	2	更新が少ない	2	余裕が無く、展示の更新があまりできなかった		
				11	読書感想文コンテスト等を実施し、学生の読書推進を図る	教員によるものが大きい	3	参加学生を増やす	3	3	学科により偏りがある	3	学科により偏りがあり、参加学生のいない科があった		
				新規	教員推薦図書、キャリアセンター推薦図書の利用促進	新規		推薦図書ｺｰﾅｰの充実	3	3	教員の推薦図書が少ない	3	教員の推薦図書が少なかったこともあり、参加学生数も減少した		
		環境整備	学生が満足できる環境である	12	学生が利用しやすいよう、開館時間の延長、日曜日開館の実施を行う	夜間開館の延長を試みたが、利用度に大きな変化はなかった	4	後期試験期間中の開館時間延長	3	—	職員数の関係もあり、実施せず	1	職員数の関係もあり、実施せず		
				13	共同学習のためのスペース（ラーニング・コモンズ）を設置する		2	ラーニング・コモンズの検討	2	—	—	—	—		
				14	第二書庫を学生が自由にはいれるスペースにするため、修理を行う	今年度予算はついていない	1	電動書庫の修理	1	—	今年度予算はついていない	—	今年度予算はついていない		
				15	ブックディテクションシステム等の導入により、学生が入りやすい環境を作る	今年度予算はついていない	1	ブックディテクションの導入	1	—	今年度予算はついていない	—	今年度予算はついていない		
				16	空調設備の完備や飲食可能スペース等を整備し、滞在しやすい空間を生み出す	今年度予算はついていない	2	空調の完備	1	—	今年度予算はついていない	—	今年度予算はついていない		
研究（研究支援）	必要な学術情報を収集、整理、保存するとともに、教員の研究活動を支援する	資料の充実	必要な学術情報が収集できている	17	データベース等の電子コンテンツを整備する	定期的なメンテナンスが必要	3	電子資料の利用促進	3	3	利用しやすいHPを検討中	2	新HPの更新がしにくく、使い勝手が悪い		
				18	リンク集等の維持管理を行う	定期的なメンテナンスが必要	2	維持管理を行う	3	3	更新が少ない	2	HPの更新がしにくく、回数が少なかった		
				19	データベース講習会を開催する	実施（9/10）	1	講習会の開催	3	1	未実施	1	希望者が少なく、未実施である		
				20	文献複写・相互貸借により本学に無い資料を入手する	実施	5	文献複写・相互貸借の実施	4	5	文献複写・相互貸借を実施している	5	文献複写・相互貸借を実施している		
		研究活動の発信	研究成果の発信	21	CiNiiに研究成果を登録する	実施	5	CiNiiへの登録	5	5	山陽論叢のCiNiiへの登録	3	山陽論叢はCiNiiへの登録を行った		
				22	図書館HPから研究成果へのリンクを管理する	整理中	5	リンクの維持管理	3	4	リンクの維持管理	3	HPの更新がしにくい		
				23	機関リポジトリを立ち上げる	予定が無い	1	CiNii終了に伴い、リポジトリまたは移行先を検討	3	3	本学独自の「リポジトリは無理のため、J-stageへ移行	3	J-stageへ移行申請		
社会活動（地域貢献）	開かれた大学図書館として、地域住民の生涯学習を支援する	地域住民の受け入れ	学外者の学習を支援する	24	HP等で学外利用者の利用について紹介する	実施してる	4	リンクの維持管理	3	3	内容の見直しを検討	3	内容の見直しを検討		
				25	学外者に資料の貸出を行う	条件付きで行っている	3	条件付きで行っている	3	4	条件付きで行っている	4	条件付きで行っている		
				26	岡山県横断検索に参加し、一般市民が利用しやすい環境を作る	実施	3	一般の利用が少ない	3	5	個人の利用は少ないが、他の公共図書館からの依頼が増加	5	貸出依頼が増加している（年間50件程度）		
		情報の発信	情報を発信する	27	ホームページを整備・充実させる	整理中	3	ホームページの充実	3	3	内容を検討	2	更新がしにくい		
				28	本学関係資料を整理し、公表する	未整理	2	資料室の整理	2	1	未整理	1	未整理		

①重点事業	
	1. 他大学のように、図書館が大学の顔になるよう、建物の修繕を図る（特に入口を明るく、入りやすい環境を作る）
	2. 共同学習のためのスペース（ラーニング・コモンズ）の場所を検討する（図書館でなく、学内の他の場所も含める）
	3. 学生にとって快適な空間になるよう、環境整備を行う。（空調、電動書庫の修理、雨漏りの修理等）
	4. 新館建築を長期計画の中で検討する。
②重点事項	
	1. 学生の図書館利用を習慣化させ、貸出冊数、入館者の増加を図る。
	2. 学生の利用を推進すべく、待っているだけの図書館でなく、図書館側も興味をひくような働きかけを行う。
	3. 開かれた大学図書館として、地域住民の生涯学習を支援する。
新規	4. 行き場の無い学生にとって、憩いの場となる環境を提供する。

＊年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。（参考　5；とても良い、4；良い、3；ふつう、2；やや不足、1；不足）

平成28(2016)年度（社会貢献領域）事業計画／平成28 (2016)年度実施評価付　担当：ボランティア支援・社会サービスセンター

2015年度事業計画作成2015.06→重点項目書加え07.23→中間報告09.02.07→年度末報告2016.03.24→2016年度事業計画案作成2016.04.17→**2016年度末報告2017.04. 06**

区分	目的	項目	達成目標（___部分は2016(H28)年度事業計画(案.04.17時点）	No	学部学科	センター	行動目標	期末の達成値と評価 達成値	平成28(2016)年度の課題	平成28(2016)年度の課題と目標値 今年度の計画	目標値	期末の達成値と評価 達成値	平成28（2016）年度の達成値と評価 達成値に対する評価	備考
社会貢献	「愛と奉仕」の具現化であるボランティア活動を学内外で組織的に推進するとともに、社会活動－地域貢献の活性化を図る。 （１）公開講座への地域団体、行政の参画を促す。 （２）学生による防犯活動グループ「さんぱと隊」の活動を促進する。 (3)地域を対象とした学生参加型授業の必修化等を検討する	活動の継続発展	(1)企画段階から地域団体の参画、行政からの意見聴取等を取り入れ、内容の充実した創立130周年を記念する公開講座として実施する。	1		◎	前年度アンケートの精査	2		C実施する。	3	4	C実施した。	
				2		◎	企画段階からの地域団体の参画・行政からの意見聴取等	5	行政との協調をより深いものにすること。	PD公開講座を130年記念に相応しい内容にする。 D認知症カフェは平井学区が実施に向けて動き出した。進展が期待される。	3	4	D公開講座は包括提携をした和気町・真庭市の後援を得て現地で開催できた。 D公開講座で継続的にテーマとしてきた認知症カフェは学区が「オレンジカフェひらい」として定期開催に	
				3	・	◎	公開講座の参加者数を一定数確保する。	4	地元の催しが重なることがある。不可抗力の面がある。	D公開講座の参加者数を一定数確保する	4	3	C第1回（本学会場）は想定した参加者を得た。第2回（真庭会場）、第3回（和気会場）では、一般住民の参加が少なかった。	
			生涯学習への対応			◎	聴講生制度に基づく社会人学生の受入をおこなう。	2	この項目については、十分な募集増強活動ができていない。方策を検討する。	P聴講生増加の方策を検討する。 PD公開講座・公開講会も生涯学習活性化の一環と改めて位置づける。	3	1	C聴講生募集については、十分な募集増強活動ができていない。	
			大学等施設の開放		○	◎	高齢者の学び直しを支援する。	3		D子育て愛ネット、本学主催認知症カフェ等を通じて大学開放をより進める。	3			
			(2)創立130周年を記念した公開講演会として実施する。を実施する。	1	◎	・	公開講演会の企画を学部・短大の特性を活かしたものに。	―		PD講演会は今年度は看護学部が担当する。130周年に相応しい内容に。	3	3	D「子どもとのパートナーシップを大切に」（尾木直樹講師）を開催した。	
				2	◎	・	学部・短大：公開講演会を、地域社会・行政と連携実施	―		〃	4	3	D岡山大学鹿田キャンパスのホールを使用した。	
				3	◎	・	学部・短大：公開講演会の参加者数を一定数確保	―		〃	3	4	C参加者を確保することがきた。	
			(3)“Sanyo子育て愛ねっと”活動を全学的な活動とし、さらに事業を推進する。	1	◎	・	事業の企画を学部・短大の特性を活かしたものに。	―		PD愛ネット今年度から総合人間が加わる。調整は完了している。	4	4	D今年度から総合人間が加わった。全学体制になった。	
				2	◎	・	事業を、地域社会・行政と連携して実施する。	―		〃	3	3	〃	
				3	◎	・	事業の参加者数を一定数確保する。	―		〃	3	3	〃	
				4	◎	・	地域における教育支援又は子育て支援の実施	―		〃	4	3	〃	
		大学コンソーシアムの活用	(4)「大学コンソーシアム岡山」の活用を図る。	1	○	◎	コンソーシアムを本学の教育内容・教育方法の充実に活用する。	4	本科目総合人間学部の科目である。2015年度は食栄1名の履修があった。	PD大学コンソーシアムの双方向オムニバス授業「地域貢献」の内容を良くしていく。履修者の確保につとめる。	4	3	D大学コンソーシアムの双方向オムニバス授業「地域貢献」の内容を改善した。熊本震災復興ボランティア（本学から1名参加）の活動報告を作成し、教材として使用した。	
				2	○	◎	コンソーシアムを本学の学生の社会貢献・ボランティア活性化に活用する。	4		PD今年度も学生が日ようび子ども大学、エコナイトに参加する。	3	3	D日ようび子ども大学に生活心理学科・幼児教育学科の学生、エコナイトに学友会・生活心理学科学生（運営・うらじゃ演舞・東日本大震災復興支援ミニミニ関上朝市出店）が参加した。	
				3	○	○	コンソーシアムを本学の学生の就職活動に活用	―			2	3	D 経験を就職活動で活用するよう伝えた。就活で役立ったかは未確認	
		講師・委員の派遣	(6)地域の教育機関等への講師派遣を推進し、地域貢献を推進する。	1	・	◎	教育機関への講師派遣結果を実態把握を大学がおこなう。	実施中		C年度末の締めが終わった時期に数字を把握する。	3	3	C年度末の締めが終わった時期2017(平成29）年4～5月に数字を把握する。	
				2	・	◎	教育機関への講師派遣の重要性を啓発する。(FDで)	3			3	2	C今年度FDで啓発する機会が無かった。	
				3	○	◎	教育機関からの派遣を開拓する。（入試広報部出張授業PR等）	3		PD入試広報が運営部となり教職員が高校訪問で実施する。	3	3	D入試広報が運営部となり教職員が高校訪問で実施した。	
				4	○	◎	教育機関への講師派遣の件数を増やす。	2			3	3	C年度末の締めが終わった時期2017(平成29）年4～5月に数字を把握する。	
			(7)行政機関や地域からの要請に応え、委員を派遣し適正な地域貢献を図る。	1	・	◎	行政機関から受けた委員派遣結果の実態把握を大学として（教職員の理解を）	実施中		D行政に対する委員の派遣先の開拓は、「さりげなく」「チャンスを掴む」姿勢で進める。	3	3	D行政に対する委員の派遣先の開拓は、「さりげなく」「チャンスを掴む」姿勢で進めた。今年度、教員への啓発活動はできなかった。	
				2	・	◎	委員派遣依頼を断らないよう学内啓発する。(FDで)	3		D本学から行政機関の委員を出すことのメリットをFDSDで継続説明する。	2	2	D今年度、教員への啓発活動はできなかった。	
				3	・	◎	全学：行政機関との接触（コンタクト）を経常的に取る重要性を学内啓発(FDで)	3		D委員を受けている教員ごとに、可能な限り行政機関との接触（コンタクト）を経常的にとっていくことをFDSDで周知していく。	3	2	D今年度、委員を受けている教員ごとに、可能な限り行政機関との接触（コンタクト）を経常的にとっていくことをFDSDで周知していくチャンスがなかった。	
				4	○	○	全学：行政機関への委員派遣の件数を増やす	3	本項目を積極的に実施することは、社会通念上困難。	D行政機関との接触（コンタクト）を経常的にとっていく。無理に増やす活動は逆効果なので、さりげない増加策を継続する。	3	2	D行政機関との接触（コンタクト）を経常的にとっている。無理に増やす活動は逆効果なので、さりげない増加策を継続している。	
		教育・研究	(8)創立130周年を契機として、愛と奉仕の具現化であるボランティア活動を活性化し、社会活動-地域貢献の更なる推進を図る。学生への授業、教職員へのSD・FDを通じて、ボランティア活動の活性化を図る。加えてボランティア募集活動の広報を強化する。	1	○	◎	ボランティア活動の実態把握を大学としておこなう。（教職員・学	実施中		C年度末・年度初めの切り換え時期に数字を把握する。	3	4	Cボランティア活動の実態把握ができた。ボランティア保険の加入の徹底により把握ができた。	
				2	○	◎	ボランティア活動の意義、大学への報告の必要性を教職員学生に啓発（FD・SD、授業）	3		PD大学は新入生にボランティア活動を呼びかけが「知的生き方」でできなくなった。来年度復活を要望していく。「知的生き方」「人間学」のグループワークでボランティア活動を実施する。教職員にはSDFDで伝える。	4	2	D今年度、大学は新入生にボランティア活動を呼びかけが「知的生き方」でできなくなった。来年度復活するになった。	
				3	○	◎	ボランティア活動の支援をする。（FD・SD、授業で）	3		Dボランティアニュースを発行し学生に情報提供を続ける。 Pネットを使ってボランティア情報を流すことも検討していく。	4	3	Cボランティアニュースを発行し学生に情報提供を続けた。	
			地域課題解決を目的とした研究（共同研究）の実施	1	○	○	地域課題解決を目的とした共同研究を実施する。 （研究支援・共同研究推進機構と連携）（COC＋）	4		PD県立大COC＋の「参加大学」としてVODコンテンツを2015年度の大学各学科1本、計3本に続き、2016年度は各学科2本づつ合計6本を作成する。	3	4	C県立大COC＋の「参加大学」としてVODコンテンツを2015年度の大学各学科1本、計3本に続き、2016年度は各学科2本づつ合計6本を作成した。	
				2	○	○	地域課題解決を目的とした共同研究を実施する。 （研究支援・共同研究推進機構と連携）（笠岡等）	4		①D生活心理学科教員学生が笠岡市大島地区の活動に継続して参加していく。 ②PD看護学科の地域に出る教育活動（保険・災害看護等）の継続・発展させる。	4	4	①C生活心理学科教員学生が笠岡市大島地区の活動（バンバーガー作り等）に参加している。 ②C看護学科の地域に出る教育活動（健康測定）が平井学区で実施された。	
			(13)地域貢献活動制度の体系化のため、地域を対象とした学生参加型授業の必修化し「地域から世界まで」の中に位置づけ体系化	1	・	◎	地域との協働連携事業（全学、学科、研究室、チーム）の実態把握を大学として実施。	4		:③P2015年度おかやま大学生中山間地域研究を実施した真庭市には継続活動を打診する。	3	4	③Cおかやま大学生中山間地域研究を、2016（平成28）年度も真庭市で実施できた。「真庭地域研究　真庭学びのパスポート」を作成し啓発活動・意見収集をおこなった。	
				2	○	◎	地域との協働連携事業を推進する。	3		④D総合人間学部として、大学の近くの用水面（生活心理学科）と、路上・公園（言語文化学科）のゴミ回収活動を続けていく。	4	3	④C総合人間学部として、大学の近くの用水面（生活心理学科）と、路上・公園（言語文化学科）のゴミ回収活動を継続している。	
		地域、行政機関との連携	(5)地域との協働連携事業を推進する。	1	○	◎	企画段階から地域団体・行政との調整	5		⑤PD平井学区が認知症カフェの実施に向けて検討チームを立ち上げ活動を開始した。本学も会議に参加・支援していく。	3	4	⑤C平井学区が認知症カフェを10月から月1回の開催を始めた。本学も会議に参加・支援している。食物栄養学科が毎回学生を参加させている。公開講座第1回は役割分担して開催した。	
				2	○	◎	参加者数を一定数確保する。	4		（⑤の続き）平井学区と認知症サポーターと協調して本学の公開講座や、平井学区としての実施にむけて活動する。 ⑥P真庭市長に本学との包括提携の意向がある。提携に向け学内検討を進める。 ⑦P玉野市との国際系の提携の依頼が来ている。本学として検討を続ける。	3	4	⑥C真庭市長に本学との包括提携を締結した。その後、公開講座第2回を真庭で開催、おかやま中山間地域研究（生活心理学科）の真庭で実施した。 ⑦P玉野市との国際系の提携の依頼については、進捗の報告がない。	
			(9)平井地区から岡山市、県、全国へと社会活動・地域貢献の輪を広げるための戦略を立て、実践する。	1		◎	「平井地区から全国へ」の戦略を立てる。（岡山市と保健福祉・危機管理面の提携等）	4	岡山市が積極的でない。方策を検討する。	⑧PD岡山市との包括提携の目途は見出せていない。継続して探っていく。認知症カフェ、災害避難活動等で継続に実績を重ねていく。	3	4	⑧C岡山市中区と包括提携できた。記念講演会も開催した。	
				2	○	◎	「平井地区から全国へ」の戦略を実施に移す。	4	笠岡市大島地区、真庭市との連携継続について検討する。	⑨(再記)D包括提携をしている笠岡市大島地区のまちづくり活動に、新入生1日研修で総合人間学部が大島地区を訪問した。年間を通じ学生・教職員を派遣していく。	3	4	⑨(再記)C笠岡市大島地区に新入生1日研修で総合人間学部が訪問した。生活心理学科が年間を通じ学生・教職員を派遣している。食物栄養学科も職に関して笠岡を訪れた。 ⑩C宮城県名取市「ミニミニゆりあげ朝市」をエコナイト奉還町会場に出展した。	
			(10)地域（平井学区、岡山市、岡山県等）の防災訓練について協働するとともにその人材育成に努める。	1	○	◎	防災訓練について地域(平井学区、市、県)と協働する。（平素の準備も含めて）	4		PD防災については、行政・地域とは提携できる機会を探っていく。公開講座のテーマにするか検討する。	3	2	C防災については、具体的活動はできなかった。	
				2	○	◎	防災訓練について人材育成に当たる。 （学生サークル支援、FDSD、知的生き方等）	4	文科省の補助制度に申請する。	D平井小学校の災害避難教育には今年度も講師派遣依頼が来ると出向く。 P学内の平素の防災については総務課と協議を続ける。	3	2	C平井小学校の災害避難教育には今年度も講師派遣依頼が無かった。 C学内の平素の防災については総務課が検討している。	
			(11)学生による自主防犯組織「さんぱと隊」の活動を支援する。	1	○	○	学生の「さんぱと隊」を支援する。	―		D学生部と情報交換しながら、さんぱと隊を支援する。さんぱと隊は学友会メンバーが中心になって、出動依頼に対応している。	3	3	Cさんぱと隊支援は、学生部が中心に実施している。出動依頼に対応している。	
				2	○	◎	学生サークル（部・同好会）のボランティア活動を支援する。	3	継続的な努力をする。新たな方策も検討する。	（再記入）Dボランティアニュースを発行し学生に情報提供を続ける。 （再記入）Pネットを使ってボランティア情報を流すことも検討していく。	3	3	（再記入）Cボランティアニュースを発行し学生に情報提供を続ける。ボランティア保険加入を勧めたため、学生の活動の状況が把握できた。	
				3	○	◎	学生（個人有志単位）・教職員のボランティア活動支援をする。（授業で、個別で）	3	継続的な努力をする。新たな方策も検討する。	〃	3	3	〃	
		施設運営	(12)ボランティア支援・社会サービスセンターと共生・グローバル推進センターの連携を強化	1		◎	多目的交流プラザを開設し、運営する。	4	継続的な努力をする。	D活性化に向けて継続的に努力する。	3	3	C学生にセンターの存在をPRしている。活性化に向けて具体的な施策は十分ではない。	
				2		◎	多目的交流プラザにCOC・共生・グローバル化推進プロジェクト部門を運営する。	4	継続的な努力をする。	〃	3	3	〃	
			(14)開かれた大学図書館として、地域住民の生涯学習を支援する。	1		図書館	開かれた大学図書館	―	17時15分以降の開館延長を学生アルバイトに頼っているが人材難	PD学生の学習の利便性・安全性を確保した上での図書館を公開をすすめていく。	3	3	C学生の学習の利便性・安全性を確保した上での図書館を公開をすすめている。	
				2		◎	地域住民の生涯学習を支援	通 ―		〃		3	〃	